

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 2 号)

1 平成2年3月8日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 脇田 安保	2 番 永井 龍平
3 番 田沢 勝信	4 番 庄司二三男
5 番 岩村 勝弘	6 番 山崎 雅己
7 番 生稲 陞	8 番 鈴木 勝美
9 番 山口 康雄	10 番 鈴木 忠夫
11 番 神田 守隆	12 番 榎本 春光
13 番 山中金治郎	14 番 小宮 利夫
15 番 横溝 功	16 番 石井 昌治
17 番 石井 謀	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 福原 勤
21 番 辻田 実	22 番 黒川 平治
23 番 流山源次郎	25 番 渡辺 昭夫
26 番 近藤 好雄	27 番 林 豊
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 渡辺 弘
総務部長 渡辺 秀夫
経済部長 安西 良一
教育委員会 正木 高剛
委員長

助役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 小幡 清之
水道課長 鈴木 信一
教育委員会 福原 修
教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 修一

1 議事日程（第2号）

平成2年3月8日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（林 豊君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（林 豊君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の3月5日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は、既に通告してございます事項につきまして、御質問をいたそうとするものでございます。

今議会におきましては、去る3月1日に開かれまして、市長から慣例の施政方針演説を聞いたわけでございますが、私はこの施政方針を受けて御質問をいたそうとするものであります。今回の半澤市長の施政方針は、大変簡潔でよく理解でき得るものであったと率直に御評価いたすものでございます。市長は、その中で昭和49年以来4期16年間にわたって市長を務め上げてまい

った。この間、人間尊重を一貫したテーマとしてやってまいったということで、その間各種事業を遂行し、ほぼ所期の目標を達するほどのことはなしましたというある種の感慨を込めて申し述べておるように私は受けとめました。確かに半澤市長にとりましては、4期16年、今期の最後の施政方針でございましょうし、今期ということで申し上げれば、最後の予算編成でございまして、やはりそういったある種の感慨が入って、行間から読み取れるのもむべなるかなと存ずるわけでございます。

さて、その施政方針の中で、市長は、重点項目について厳選をいたし、財源の効率のよい運営に努めましたということで、本予算について申し述べ、そして重要事項を4項目にわたって挙げております。第1が、館山駅周辺の市街地整備事業、第2が道路交通網の整備、第3が上水道、公共下水道の整備、第4が産業の振興等々、こういうことを重要事項として述べておるわけでございます。私は、そういったこれまでの施政方針を受けて、今回ここに御質問をいたそうというものでございますが、私の質問の要旨は既にお手元に配付のとおりでございますが、第1にリゾート法に基づく各種事業の進捗状況について、レインボータウン計画等の動きはどうかということであります。第2が、生活環境問題とその対策方について、館山湾の汚濁、井戸水の汚染及びゴルフ場の農薬汚染は大丈夫かということでございます。第3点が、道路交通網の整備状況について、幹線道路網とその接続部分、接続地点との整合はでき得るのかということでございます。第4点が、館山駅周辺整備事業について、事業のこともさることながら、去る2月でございますか、西口の裁判が解決いたしました。これと事業の進展問題について、お聞きいたします。第5が館山市都市計画の見直しについてということでございます。そして、第6点目が国民健康保険税について、この国民健康保険がもう少し安くならないか。以上の6点について、お聞きいたすものでございます。

そこで、順次これから御質問に入りますが、ひとつ御回答は簡潔にいたしたいというふうに、前もってお願い申し上げておくところでございます。

第1のリゾートの問題でございますが、去年は館山市がリゾート元年とい

うことで、口を開きますとリゾート、リゾートということで、あたかもリゾート鳥が鳴いているようでございましたんですが、リゾートと言いますれば、神のお札をいただいて、もうこれさえあれば何でも構わぬ、館山市の将来はバラ色だというような雰囲気の中であったんでございます。折からの金余り現象と申しますか、要するに東京マネーがどっとこの房総地方に流れ込みまして、館山市を中心とする房総半島は未曾有というか、狂乱といいますか、大変な物価、土地の狂乱になったわけでございます。隣の富浦町などは、上昇率80%ということで、全国の上昇率の中の第2位に入ったというほどのことございまして、実際はもっと上がっておったかもしれない。それほど土地に対する東京マネーが、局地的集中豪雨のごとく襲ったわけでありますが、私は誤解を招くということを覚悟して申し上げれば、房総地方が多少土地が上がるということは、すべて悪ではないんだというふうに思っているものです。例えば東京の1億、2億の金が1%、2%上がっただけで何千万、何百万上がる。しかし、房総地方はもう一帯にして底辺が低過ぎますから、そういう意味では多少のことは仕方がないのかなと思っておりますが、このことはこの問題とかけ離れますので、一応置きます。

いずれにいたしましても、去年はリゾート元年ということで、館山市といたしましても、行政サイドで地域振興課を設立し、リゾート研究会を設け、そして行った結果、房総リゾート地域が国の指定を受けた。こういうわけでございます。そこで、館山市も五つのプロジェクトのうち3つの民間プロジェクトが大きくここに展開されておるわけでございます。1つが館山レインポートタウン計画、2つ目が南たてやまマリンパーク計画、第3が太陽海岸平砂浦計画と申しますが、この3つが現在民活として行われている。

そこで、御質問をいたしたいんでございますが、第1点がこれら3つの事業、計画が現在いかなる進行状況にあるのか。簡単で結構ですので、ひとつお聞かせ願いたい。この計画はこうだよ。この計画はこうだよ。簡単で結構でございます。質問の第1点がそういうことでございます。

第2点目が、先ほど県が全国に先駆けて房総リゾート地域整備構想という基本計画をまとめ上げました。これは、全国で初めてだそうでございますが、

リゾート整備関連の基本構想を踏まえてつくったものであるそうですね。そこで、お尋ねしたいんですが、その県の基本計画と今館山が進めておるこの民活、当然関連はあろうかと思ひます。関連はあろうかと思ひますが、いかなる関連があるのか、この基本計画ができたことによって、環境アセス等が厳しいことになるのか、そういったことを簡単にお聞きいたしたいと思ひます。以上が第1点でございます。

第2点、環境問題、ここ数年この環境問題ということが大変な社会問題になっている。これは当然のことでございます、我々を取り巻くのが全部環境だということになれば、それは当然でございます。環境問題大きく取り上げれば、地球のオゾン層が大丈夫だとか、温暖化現象がどうだ、そういう大きい問題から、小さくは我々の毎日の食生活が農薬のない野菜で食っていくのかというような小さい問題まで大変ある。そこで、とりとめもないことでございますから、私はこの環境問題について具体的に4点ほどお聞きしますから、簡単にお教え願ひたい。お答え願ひたい。

第1点が、先ごろ館山市の井戸水の検査を行ったそうでありますが、一部にはトリクロロエチレンというような有害物質も出たというふうに聞いております。この井戸水の調査結果、これはもう飲料水ですから、事は我々の生命にかかわるかもしれませんから、ひとつ井戸水の調査の結果をお聞きしたい。これが第1点。

第2点が、これも館山市が行ったと思ひますが、館山湾の汚染調査というか、汚濁調査を行っております。北条海岸の名高いぬるぬるなどについても、当然調査をいたしておると思ひますが、その結果について、さらにその対策はどうなのか、これが第2点。

第3点目は、ゴルフ場の農薬問題、これが大変問題になっております。私自身もゴルフをやりまして、年に1回か2回はゴルフ場にたまには行きます。春先これから青空の中で緑の芝生に白い球を打てるのは大変いい気持ちなんですが、何か聞くところによりますと、そういういい天気ほど農薬の害が激しいというような週刊誌の記事も読んだことがございますが、隣の三芳村でも大変な反対意見が出ておる。今度富浦もゴルフ場をつくるんだけど、

反対同盟が出ている。きょうの新聞によると、千葉県で反対同盟をつくるんだというような記事も読んだんですが、いずれにしてもゴルフ場の農業問題、農業汚染、これが地下水に汚染を与えるんじゃないか。人体への影響もあるんじゃないかということになっておる。館山市の場合、現在2つの既設のゴルフ場がございます。さらに、リゾート法に基づいて3つ、さらに1つが許可になっているから4つある。これが全部できると6つもできる。こうなると、いよいよゴルフ場の農業問題というのが大変厳しくなる。国の方でも規制をかけようというような動きがあるようでございますが、市独自としていかなることを考えておるのか、お聞きいたしたいのであります。

それともう一点、館山市で行います来年度の市の河川の浄化対策があれば、簡単にお聞きいたしたいと思います。

第3点目が、道路交通網の整備でございます。半澤市長が施政方針の中で、127号館山バイパス、現在工事中のもの、これは今年度中というか、来年度といいますか、平成2年度に全線の供用開始いたします、さらに、その館山バイパスと市の海岸道路の間の館山市の八幡高井線、この都市計画道路も年度早々には供用開始いたします、大変率直にこれは評価いたすものでございます。さらに、東関東自動車道館山線、これの早期実現に向けてなお一層の御努力をなさるということでございますので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

館山市のまくら言葉の中に、半島性を脱却し、半島性から出たい、出たい、こういうことがもう口癖でございます。まくら言葉になっておる。この脱却のためには、もうせじ詰めれば道路交通網の整備しかないわけであります。そういう意味で、今後ともひとつよろしく御努力をお願い申し上げたいんですが、ここで私がお聞きいたしたいのは、この施政方針の中で申し述べております主要地方道館山白浜線、このバイパス問題について、いまして詳しく御質問いたしたいと思います。

さらに、施政方針の中で館山市の都市計画線川名大賀線、これについて一部詳細設計をなさる、かように述べておりますが、それは具体的にどこからどこまでなのかお聞きいたしたい。

もう一点、これまで私も言っておりました。他の議員も言ってまいりましたが、北条の南町交差点、あそこがほぼ用地買収が終わり、建物も消却されて、いよいよ工事をなさるようでございますが、いかなる工事をいつごろまでになさるのか、この1、2、3点についてお聞きいたしたいと思います。

次、第4点、館山市の駅前整備事業でございます。この事業につきましては、館山市も大変な御努力をなさる重要事項でございますが、私はここでは西口の裁判が去る2月13日ですか、和解になりました。東洋興産に対して土地の半分を金8,500万で売り渡しましょうということで、6年間にわたる訴訟に一応のけりがついた。私は、この問題につきまして、当初やはり質問をさせていただきまして、私はこれは市側には何らの過失もない。であるから、一生懸命市は頑張らなさい。全面的にうちの方が正しいんだという主張の中で私はまいったわけでございますので、第1審の全面勝訴ということで、私はこれはもう妥当だと受けとめたわけでありまして、ただ、控訴審に至りまして、東京高裁での和解については、そういう意味では私の立場から申しますと、やや不満があるんでございます。どうももう少し館山市の方が有利な和解にはならなかったかなと思うんでありますが、それはそれで一応和解になって決着がついた。

そこで、お聞きいたしたいんでありますが、館山市がこの和解に至る心境、どういう心境で和解に至ったのか、お聞きいたしたいと思います。

ちょっと質問事項が多いものですから、多少早口になって聞きづらい面があるかと思いますが、申しわけございません。

第5点目が、館山市の都市計画の見直しについてでございます。現在館山市は当然市制をひいておりますので、都市計画というものを持っております。ただ、現在のこの都市計画が、昭和44年3月にでき上がったものでございますので、既に20年間を経過いたしておるわけでございます。20年と申しますと、十年一昔と申しますから、オギャーと産まれた子供が20歳になってもう成人式を迎えるほどに、既にこの計画は年々年を経るに従って熟成したというか、そういうことになっておる。その間館山市を取り巻く状況もいろいろ

変化した。さらには、去年あたりから、先ほど来申し上げているリゾート法の問題も起きた。そして、用途区分、用途地域が住居、その他用途地域がありますが、もう現在のところこの用途地域は用途地域どおり使われていない場面も出てきた。そこで、都市計画は5年に1遍ずつ見直すということになっておることで、当然見直してきております。たしか来年あたりがそろそろその見直しの時期ではないだろうかと思うんですが、この都市計画についてこの際変更し、見直す御意思がおりかどうか、この点についてお聞きいたしたいと思います。

最後が国民健康保険税でございます。私も、他の議員もこの問題についてはいろいろ申し述べておる。しかしながら、国民健康保険税が高いんだ。高いんだということは、これは我々の実感なんです。しかしながら、これ高いからといって、どうするかと言われても、また抜本策がないということも私も十分承知いたしております。医療費が上がれば、それを負担する被保険者が、それを負担しなくちゃならぬという大原則でございますから、ここで半澤市長にこうせい、あせいというのは大変酷だと思うんです。酷だと思うけど、高過ぎる。これは、館山市民全体の意識だと思うんです。

そこで、来年度予算を見てみますと、来年度は世帯で14万 9,174円、1世帯当たり取りますよということで、対前年、つまり前年度の当初予算と比べますと 1.2%アップ、1%だからいいだろうということでもあろうかと思いますが、私はこれがもう少し下がらないか。例えば対前年度比99%乃至は97%というように下がる方法がないのかというふうなことをお聞きいたしたい。一般会計からの繰り入れ、これがいろいろ議論がある。問題があるということは、私も十分承知しておりますが、館山市は一応そこに導入しておる。ですから、一般会計からの繰り入れをもう少しできないか。つまり古い言葉で申しますと、苛斂誅求は暴虎より甚しと申します。税が高いということは、税が重いということは、あの恐ろしいトラの被害よりも恐ろしいですよということである。ですから、さようなことがないように、何とかひとつ館山市に頑張っていただきたいと思うわけでございます。

以上6点にわたりまして御質問申し上げましたが、半澤市長には簡明な御

答弁を御期待いたし、答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 日下議員の御質問にお答えをいたします。

まず、大きな第1点でございますが、リゾート法に基づく民間主要プロジェクトの推進状況についての御質問でございますが、南たてやまマリンパーク計画、館山レインボータウン計画及び太陽海岸平砂浦計画につきましては、関係住民、関係産業者への開発計画等の説明会並びに県関係機関との協議を重ねながら、魅力あるリゾート地形成に向けて検討しているところでございます。さらに、南たてやまマリンパーク計画及び太陽海岸平砂浦計画は、現場事務所を設置し、地権者と用地の協議等を進めており、一部まとまったと伺っております。また環境影響評価調査についても実施していると報告を受けております。

次に、千葉県が策定いたしました房総リゾート地域整備基本計画の関係でございますが、この基本計画は房総リゾート地域整備構想の円滑な実施を図り、計画的なリゾート地域整備を進めるため、公共施設整備計画、特定民間施設整備進行管理、環境保全に対する指導、大規模開発の適正な誘導等が主な内容でございます。この中で環境影響評価指導要綱の主な改正点といたしましては、複合開発事業の場合の対象規模の面積要件を強化したことがございます。

なお、各重点整備地区実施計画につきましては、平成2年度を目途として策定することになっております。

次に、大きな第2点、生活環境問題とその対策についてでございますが、まず第1点、地下水汚染についての御質問でございますが、トリクロロエチレン等による地下水汚染を防止し、水質の保全を図ることを目的とし、本年2月13日及び3月1日に北条地区20カ所及び神戸、富崎地区14カ所、合計34カ所につきまして調査を実施いたしました。その結果、神戸、富崎地区につきましては不検出であり、北条地区の1カ所につきましては、水道水及び飲料水に対する暫定基準をリッター当たり0.006ミリグラムを超えるテトラク

クロエチレンが検出されました。検出されました世帯につきましては、煮沸して飲用するよう館山保健所とともに指導を行っております。今後県の指導を受けながら、汚染源究明調査及び汚染除去対策を実施してまいります。

次に、ゴルフ場における農薬使用につきましては、事業者から県へ農薬使用状況等についての報告があり、この報告によりますと、安全かつ適正な使用がなされていると聞いております。今後とも定期的な巡回指導を県にお願いしてまいりたいと考えております。

館山湾の汚濁についての御質問でございますが、平成元年度に実施いたしました館山湾汚泥堆積調査結果によりますと、海域の汚濁は河川、排水路からの流入が主な原因と考えられます。今後排水路現況調査の結果を検討しながら、処理施設の建設や主要河川、排水路への塩素減菌、三角コーナー、水切りごみ袋の試供品の配布により、市民の浄化に対する意識の高揚を図り、さらに家庭用小型合併処理浄化槽の補助等、これらの施策を引き続き推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3点、道路交通網の整備状況についてでございますが、まず主要地方道館山白浜線バイパスにつきましては、平成元年度に路線測量及び基本設計が完了し、地元役員に対し説明会を実施してまいりました。平成2年度におきましては、関係する地権者の方々に説明し、了解が得られれば用地測量を実施し、一部用地の取得を行いたいと館山土木事務所から伺っております。なお、完成時期につきましては、東関東自動車道館山線の完成に合わせて、平成7年度までに供用開始できるよう県にお願いいたしているところでございます。

次に、都市計画道路川名大賀線の詳細設計区間でございますが、主要地方道館山白浜線バイパスの計画路線から、現道館山白浜線までの間を予定しております。

また、南町交差点の道路改良につきましては、平成元年度は北側の道路改良工事を既に発注済みであり、平成2年度は南側の歩道部分の改良を実施し、完了すると館山土木事務所から伺っております。

次に、大きな第4点、館山駅周辺整備事業についてでございますが、まず

和解に至った経過につきましてお答えをいたします。訴訟の対象となっておりまして土地の登記名義ですが、東洋興産株式会社から昭和57年12月に、株式会社東洋ファミリーら4名の共有となり、昭和58年9月に大和不動産株式会社に移り、昭和58年10月に財団法人館山市開発公社が取得いたしました。登記原因は、いずれも売買でございます。そして、昭和59年5月、東洋興産株式会社は本件土地の所有権移転登記の抹消を求めて提訴いたしましたが、昭和62年8月に1審判決があり、公社が勝訴いたしました。その後昭和62年8月に、東洋興産株式会社は1審判決を不服として、東京高等裁判所に控訴し、第2審が始まったのでございます。第2審では、法廷9回、和解の話合い8回が開かれ、公社理事会の決定を得て、公社所有地の2分の1の面積に当たる1,164平方メートルを8,500万円で東洋興産株式会社に売却するという内容の和解が2月13日、東京高等裁判所において成立いたしました。

次に、和解した理由でございますが、まず東京高等裁判所から和解による解決との強い勧告がございました。そして、公社の代理人も和解すべきだという意見でございました。また、和解によりまして館山駅西口地区土地区画整理事業用地として利用できる地積も確定をいたしました。これらを考え合わせまして、公社は和解に応じたわけでございます。

なお、東洋興産株式会社との土地売買代金の決済期限でございますが、東京高等裁判所作成の和解調書におきまして、本年3月20日と定められております。

次に、第5点、館山市都市計画の見直しについてでございますが、用途地域の見直しにつきましては、昭和60年度の都市計画基礎調査に基づき検討を行ってきたところでございます。その結果、館山駅西口地区土地区画整理事業に伴うもの並びに用途の純化を図り、良好な居住環境を保護するため、一部の地域について見直しの必要があると考えており、この変更手続につきましては、平成2年度以降県と協議を行いながら進めてまいりたいと考えております。

なお、用途地域の拡大につきましては、現時点では行わないものと考えております。

次に、大きな第6点、国民健康保険税についてでございますが、まず平成2年度の健康保険税でございますが、被保険者の療養に要する費用等を勘案し積算いたしました結果、1世帯当たり平均調定見込額14万9,174円で、前年度当初予算対比101.21%でございます。現在11月分までの医療費を把握しておりますが、前年度を大きく上回っている状態でございますので、国保税の引き下げは難しいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（林 豊君） 18番議員日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） おおむね了承するところでございますけれども、なお細部にわたりまして一、二御質問いたしたい部面もございますので、再質問させていただきたいと存じます。

第1点のリゾート問題でございます。御回答によりますと、南たてやまマリパークと太陽海岸平砂浦、これについては一応進んでおるということのようにございますが、レインボータウン計画については、今の御回答では動きがないというふうに受け取れたんでございますが、さように御理解してよろしいのでしょうか。簡単に御回答をお願いします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 関係の町内会あるいは関係者に、こういう計画のもとに事業を進めたいという事業説明が終わった段階でございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 先ほど御質問しましたように、県の方で基本計画をおつくりになった。これに基づいて当然事業そのものが動くんでしょうけれども、館山市として昨年国の承認を受けて、各ただいま申し述べました3つのプロジェクトについて基本構想は出させたと思うんです。たしかその基本構想が出た。それによって承認を取った。その後実施計画は、元年度中に出してもらおうんだというふうに私の方は承っておったんでございますが、現在のところこれ出ているんですか、実施計画は。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 実施計画につきましては、次年度におきましてつくるという予定になっております。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） つまり当初は元年度までにやるということではなかったんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） このたび房総リゾート地域整備基本計画が県におきましてつくられまして、それによりまして今度はそれぞれのプロジェクトによりまして、実施計画をつくっていくというような運びになります。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 了承します。

先ほど申しました県の策定した基本計画によりますと今後——今後ということは多分2年度からだと思うんですが、ほぼ10年間にわたる実施計画を作成し、各次年度ごとの実施状況といえますか、実施成績を県に対して出せ。それに基づいて各市町村も指導せい、こういうふうに規定されたと聞いておりますが、そういうことでしょうか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） そのとおりでございます。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 私が言いたいのは、こういうビッグプロジェクトでございますから、多少ずれずれになるのは仕方がなかろうかなと思うんですが、当初より仕方がないでは済まぬわけでございまして、国の承認を受けて、民活との大きな柱として指導するわけでございますので、ひとつでき得ることならば、こういうふうに県の基本構想もできた、基本計画もできた、それに基づいて各プロジェクトが各年ごとの実施あるいは変更を報告する義務づけを受けているわけでございますから、市もしっかりとひとつ行政指導を行っていただきたいと思います。

いま少し具体的にお聞きいたしたいんですが、各ただいま申し述べました3つのプロジェクトは、それぞれのエリアを定めている。ここまでをそのプ

ロジェクトで使いますよということで定めておりますが、このエリア、いわゆる線引きをした。この線引きの具体的な原則、こういう方針に基づいて線引きしたんだということがあるかどうか。

そしてさらに、その線引きするについて、それは各地権者がおるわけですが、その地権者の了承等のものは得ているのかどうか、この2点についてお聞きいたしたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 各プロジェクトにおきます線引きはなされております。また、その関係する地権者に対しまして説明が済んでいるかということでございますが……

◎18番（日下君敏君） 先に承諾を取ったかどうかということですか。

◎経済部長（安西良一君） 失礼しました。

承諾を取ってあるかということでございますが、これにつきましては取ってございません。しかしながら、その後におきまして地権者等の説明会等を行いまして、皆様には説明をしてございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 18番議員。

◎18番（日下君敏君） ですから、線引きするについて——簡単に結構です。線引きについてどういう原則に基づいてやったのか。例えば私はいわゆる小字というのがありますね。館山市どこそこ字何々、小字が大体の地勢に分かれていますから、そういう小字で切っていくのがどうも原則じゃないかな。例えば館山市で今度決めてあります重点整備地区は、大体字で切っているわけですね。そういう原則として字で切ったのか、あるいはほかの理由によって切ったのか、その辺お聞きいたします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 大体でございますけども、大体この地域は山でございますので、山の稜線で大体のところが線引きしてあるというような、そういうような状況でございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 18番議員。

◎18番（日下君敏君） ということは、今の御回答で、つまり地主には一応関係なくて、計画をまず線引きした。その後で各地権者に御説明をなされた、こういうことですね。原則として字ではなくて——字と大体稜線というのはほぼ通常は似るものですが、いずれにしても字ではなくて一応山の稜線に基づいてどうも線引きをいたしたようだ。多分これは市の方は余り関係していないんじゃないかなと思うんですが、そこでその結果、その地主の中には自分の地所が半分入って、半分入らないというような事態が間々、私も聞き及んでいるのは一、二件なんですけども、間々起きておるんじゃないか。ですから、確かに稜線で切ったということも、それいいんだろうけども、普通字で切りますと、字をまたいで土地があるというのは、なかなか割とないです、慣行的に見て。ですから、そういう事態が生じておるんで、この決めたエリア、この線というものは、これが不変なんですか。もうそれで決まりなんですか。それとも、フレキシブルというか、移動するんですか、その辺をちょっと御確認しておきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） リゾート開発整備を成功させるといいますか、進捗させるというような意味から申し上げますと、最初決めたものを変更することは好ましくないというように考えておるわけでございますけども、しかしながらいろいろな事情があると思います。おっしゃるように、場所によってはそういうところも出てくるかなという気がいたします。やむを得ないものについては、計画段階で、用地買収まで入っちゃってからどうのこうのということになりますと、若干問題が出てくるかと思いますが、計画段階におきまして企業側と調整を進めてもよろしいんじゃないかというように考えております。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） その線と接するということおかしいですが——まずその前にちょっとお聞きしたいんですが、市としてはこういうビッグプロジェクトがありますね。これは、リゾート法に基づいているんですが、そのほ

かの例えば他の民間は、これ出てきてはいかぬのだ — そのほかの地域です — という考えなのか、それとも民間業者でも、それは何を開発するか知らぬけれども、デベロッパーとして来るならば、それはそれで仕方がない。それは認めようという方針なんですか、簡単にお聞きしたいんですが。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 私どもが心配するのは、そういう例えば小さいものが幾つか出てまいりまして、せっかくのリゾート開発をしようとするところができなくなってしまうような変更では困るけども、先に計画をしたプロジェクト側もいわゆる了解のもとに、この程度だったらいいんじゃないか、また、それが市の振興にも役立つというようなものであったならば、市の方としてもやむを得ないかなというように現段階では考えております。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 先ほどの御回答で、いわゆるプロジェクトとプロジェクトは企業間調整をというような御回答ですね。企業間調整をしてほしいということですね。

そうしますと、それを受けてちょっとお聞きしたいんですが、とりあえず両方ともがいわゆる国土法なり、開発を出す — 開発の事前申請ということになりますと、相当もう煮詰まった線で来るんでしょうけども、いずれにしてもじゃ用地買収に入るといときは、当然国土法の規制を受けますんで、国土法の届け出しますね。そうしますと、たまたまそこが結果的にダブるというような場面があった場合、その場合はもう全くそれは認めないということなんですか、申請も。それとも、認めておいた上で、そちらで御調査して、いろいろ行政指導していくということなんですか。簡単で結構ですから、回答は。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 最初の開発計画といいたしましょうか、それはやはり市の発展のためにどうしてもやりたいんだという、市もそう思っておりますし、県も思っているわけでございます。そういうことで、できることならば市の示した3つのプロジェクトにつきましては、できるだけ用地の協力は

願いたいということは考えております。しかしながら、やはり事情等もいろいろあるかと思うんです。ですから、やむを得ないものについては受け付けざるを得ないなというように考えております。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 具体的でなかったもんですから、申しわけなかったんですけども、時間の関係もございますので、次に進みます。

館山市の方で街並み景観指導要綱というものを策定しましたですね。これによって、大変きれいなパンフレットでありまして、屋根はなるべくオレンジ色にしてください。暖色にしてください。壁は白色にしてくださいよということで、スペインというか、南欧風なものができ得るんだろと思うんです。この街並み景観指導要綱の中で、別荘地は1区画 1,000平米以上にしてください。さらに、一般宅地開発については1宅地 330平米以上にしてください。つまり簡単に言うと、通常の宅地は 100坪以上、別荘地は 300坪以上にしてくださいよ、この指導を受けるのは館山市の重点整備地域ですよ、こうなっているわけですね。それで、この重点整備地域というのは、先ほど来言っておりますが、リゾート法に基づいて重点整備地区をつくったわけでありまして、この重点整備地域というのを、この街並み景観、その他で見ると、館山湾の海岸寄り、つまり館山市館山、行政区で申しますと館山市北条も入ってくるわけですが、現実問題として例えば北条地区になると相当に地価が高いわけでありまして、館山、北条海岸あたりで、一説には 200万という売買もあったというようなことを聞いていますが、とにかく80万とか、100万とかというラインが、もうあそこは純商業地域的なものとして出てきている。そうすると、1宅地 330平米——そこへ住宅をつくるというふうに仮定しますと、100坪というのはどうもこれは無理じゃないかなと思うんですが、その点については市はどういうふうにお考えですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 御指摘のようなことも十分考えられます。しかしながら、この指導要綱をつくるに当たりまして、この目的でございますが、個性ある豊かな街並みをつくるんだ、あるいは自然環境の美観を基調とした、

新たな文化を創造した、快適で楽しく暮らせるような郷土づくりをしようじゃないか、こういうようなことでできるだけそういうような方向で進めたいというようなことから、原則として面積も 330 平米ぐらいが欲しいんだ、そういうことで皆さん努力してください、そして、まちづくりをいたしましょう、こういうようなことで指導要綱ができておるわけでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 18 番。

◎18 番（日下君敏君） つまりこれは開発を目的としているんでしょう。開発行為を目的としているんだ、原則として。ですから、いわゆるミニ住宅、ミニ開発というようなことじゃなくて、大規模な開発、つまり重点地域というのは観光上大変重要なところだから、そこで開発行為いたそうという者は、この指導要綱が原則として適用されますよということでもいいんでしょう、受けとめて。どうですか。いいか、悪いかだけ。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 開発を目的として、その場合にはこうしてほしいというようなことで考えております。

◎議長（林 豊君） 18 番。

◎18 番（日下君敏君） 西口の裁判でございますが、大体和解に至った状況はわかりました。

それで、それに基づいて 3 月 20 日に金銭の授受がされますよということで、これもわかりました。

何せこの東洋興産というのは、館山市なんかへとも思わないような立派な会社であります。夫婦だろうが何だろうが、実子だろうが何だろうが訴訟をかけるというような大変な御立派な会社ですから、これが今度地権者として西口に入ってくるわけです。ですから、今度ここが、いや、うちの方は買った。特にこの図面を見ますと、館山駅寄りを東洋興産が取ってある。そうすると、大変有利な状況の中で、これが今度仮換地これから始まるんでしょうけども、仮換地についてぐんぐんのしてきて、事業に支障がないか。そういうことをお聞きいたしたいのが 1 点。簡単で結構です。いや大丈夫だ。一生

懸命東洋興産が来ても我々は公共の立場に立ってやりますよというのか、いややっぱり東洋興産とは訴訟があったから、多少のことは我慢しようというふうに考えるのか、そこです。

それと、そういう立派な会社ですから、当然お金は持ってくるでしょう。もし来なかったら、これどうなるんですか。

簡単にその2点だけお聞きします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 私の方からそれでは……。この土地につきましては、あくまでもほかの地権者と同様に、公平に、1人の権利者として対応していきたい。そして、換地をしていくという考え方でおります。

以上です。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 裁判所が決めた和解調書による売買でございますので、ただいまのようなことは考えられないわけでございますが、しかし仮定といたしまして、万一の場合ということでお答えをすれば、8,500万円相当を強制執行をしていきたい、こういうふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 18番議員。

◎18番（日下君敏君） 一応わかりました。ひとつそういうことで承っておきます。

第5点目の都市計画の見直しですが、もう20年経過した。しかしながら、現時点ではただいまの御回答では、純化を図る——純化を図るということは、つまりは用途地域ごとに用途に見合ったものを、つまり住居地域は住居地域、さらには住居地域の一段上の第2種住居専用地域とか、あるいは住居専用地域というようなものをつくりますよということだと思ふんです、第1点純化するということは。

もう一つ、拡大は今考えておりません——私は、拡大はいささかすべきではないかなと思っているんですが、現時点では今の線引きの中で拡大はもういたしません。こういうふうに御回答いただいたと理解しております。

そこで、一、二点ちょっとお聞きしたいんですが、主要地方道館山白浜バイパス、これは都計道とは関係ないんですか、あるんですか、それあるかないか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 一部分ございます。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） そうすると、一部あるけど、ほとんどないから、これは改めて都市計画で決定するんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 今まであった路線が約半分ほどが都市計画道路に乗りまして、あとは車線から外れちゃうわけでございます。したがって、外れた部分をまた新たに都市計画——今までの都市計画道路に効率的にいいところから結ぶというような考え方をしております。したがって、都市計画変更もそれによって実施いたします。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） あるということですね。じゃ、新しくバイパス路線が決まれば、それは都市計画路線になりますよということですね。これは県道になるんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 館山白浜バイパスとしてやる部分については県道になります。それ以外は市道ということになります。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） もう一点、都計道の川名大賀線が現在ずうっと既定になっておりますが、これの変更はないということでもいいですね。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 川名大賀線といいますのは、すなわち船形の川名から大賀までなんでございますが、そのうち川名から……

◎18番（日下君敏君） それはいいです。国道から向こうでいいです。128号から館山。

◎経済部長（安西良一君） 128号を越えまして、内房線を越えたところぐ
らいまで、それまでは変わりがございません。それからやや東に路線が変わ
ってまいります、館山白浜バイパスが。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 既定の今路線がある。これは、もう私の方も承知
しています。あって、国道昇格いたした、何だ、かんだということで、鴨川
へ行く 128号までぶつかるということは、これはもう結構です、済んでいま
すから。そこから先の話が、今から主要地方道館山白浜バイパスもできます
よということですが、そこに乗っかりながら、ダブリながら大賀線が向こう
へ走っている。この大賀線の変更があるかどうかを聞いているんです。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 変更はあります。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） どの辺があるんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 館山白浜線として……。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 既定の計画路線ができていますね、現在。それに
基づいて 128号線、つまり館山の千葉銀行から鴨川へ向かう 128号、ここへ
ぶつかってきていますね。ここまでのことはもう了承しています。わかりま
した。これは、いろいろもう事業もやっている。わかりました。今から問題
にしているのは、主要地方道館山白浜線、先ほど御答弁の中で平成7年まで
に、東関東自動車道館山線が来るまでという御回答いただきました。その
線、それも一部バイパスがダブっていることもわかっています。だから、そ
のラインですね、今引いてあるラインは変更があるのかどうなのかというこ
とです。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 現在の都市計画道路は、長須賀団地の東南端、
ここをかすめまして、そして現在の館山白浜線の東電置き場のところへと出

るような計画でございます。ところが、今度の路線は内房線を渡りましてからやや東に移ります。東にふれます。いわゆる大網側にふれるわけでございます。都市計画道路が外れてまいります。そして、館山白浜バイパスはやや東側に触れるわけです。そして、違うルートを通りまして、真倉の妙音院の先の方に着くという計画になるわけでございます。したがって、大網の辺からふれるということです。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） 時間がありませんもので、このやりとりの時間はひとつ議長さん、お願いします。時間を3分ほどプラスしてください。

◎議長（林 豊君） あくまでも規定でございます。

◎18番（日下君敏君） それで、次にもう一点お聞きしたいのは、前議会のときに辻田さんとか、神田さんとかがやった富士ディーゼル、富士ディーゼルが、たしかこれ3月31日で会社が閉鎖になる、こういうことでありますが、この跡地、これは館山市の都市計画で見ると工業専用地域、こうなっておるわけです。ですから、工業がなくなっちゃって工業専用地域なのかどうか、これもうちょっと聞いておきたかったですけれども。館山市の都市計画というのが20年間も変えないというのは、1つの政策上の理由であって、例えば道路なんかもそのままなるべく変えたくないということは、その道路を使って、そこに将来は電柱もつくりたい、下水道も通したいということのために、市民に知らしめて、道路にかかる土地については、木造2階建て以上は建てちゃだめなんだということで、もう地主は知っておる、知っておるということは、将来的にはそこは都市計画道路として使われますよ、そういうことのもとに行われているわけです。

そこで、富士ディーゼルの工業専用地域、これがなくなると、簡単に住居地域ということにあるいは変えられるのかどうなのか、それをお聞きしたいということが1点と、例えば工業地域のまま建物を建てるとしたら、どういう建物が建てられて、どういう建物が建てられないのか、むしろこういう建物は建てられないというのが建築基準法であると思うんですが、簡単にお答え願いたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 1つの工場が閉鎖されたからといって、すぐにその用途地域の変更はすべきではないというふうに考えております。

もう一点の工業地域内にどんな建物が建てられるのかということでございますが、逆に言いまして、建てられないものを申し上げます。学校関係でございます。それと病院関係、ホテル、旅館あるいは風俗営業関係、こういったものが建てられないというものでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） そうすると、一般住宅とか、いわゆるマンションとかというものは建てられ得るわけですね、反対解釈として。

そこで、ちょっとお聞きしたいんですが、現在あの土地に7階建てで3棟の大体100世帯か何か入るマンションの計画があるというふうに世上言われておるそうですが、そういうものは館山市として聞いておりましたか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 事前協議の前の段階でございますが、企業者側の方が相談に参りましたので、一応は知っております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 18番。

◎18番（日下君敏君） ですから、私も今ここで聞いたんですが、要するにあそこは工業地域であるけれども、マンション、分譲住宅はできるんだ、ということですね。ですから、今のような計画が出ているんだろうと思うんですけれども、これは民間のもんですから、とやかくは言いませんが、館山市の表玄関にぴったりくっついた土地、相当広大な土地です。館山市の市街部に残っている土地の中でも有数なものでしょう。これがどういう業者がお建てになるかわかりません。その地主なのか、あるいは転売して建てるのか、それはわかりませんけれども、あるいはどういう方が建ててもよろしいんだろうけれども、館山市が今現在リゾートを進めていく上に、やはりああいう大きな1つの地主になっておるようなところは、せっかくの大きな土地

でありますから、切り売りされて、勝手に宅地が建てられたり、簡単なマンションが建てられるということは、どうも好ましくないんじゃないか、政策上。かように思うわけです。ですから、できないまでも、市の方で事前にその辺の調整というか、業者に対して調整あるいは場合によっては、これは大変夢のような話だろうけども、館山市の開発公社あたりで先行取得するような、そういうことであそこの地域をひとつ図っておく必要があろうかと思うんです。いかがでしょうか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 12月の議会だったと思いますが、市の方から会社側に対しまして、売る場合にはひとつ市の方にも話をしてほしいというようなことを申し入れはしてございます。そういうこともございますし、そのほか市といたしましても、できれば先行取得をしていきたいというように現時点では考えております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 時間が参りましたので、まことにお気の毒でございますけれども、以上で18番議員君の質疑を終了いたします。

次、17番議員石井 謀君。御登壇願います。

（17番議員石井 謀君登壇）

◎17番（石井 謀君） 私は、既に質問を申し上げてございます農業の振興対策及び南部地域総合利水計画についての進捗状況、そして館野、九重地区水道未給水地域との関連並びに新しい事業として設置が計画されております高齢者事業団について、その内容をお伺いいたします。

まず、第1の農業の振興対策についてお伺いをいたします。（1）の農産物の適地適産物として永年続いております神戸地区のレタス、パセリ、西岬、神戸地区の花弁、館野、豊房地区のイチゴ、これらは館山市の特産物になっておりますが、しかし最近那古、九重地区のナバナあるいはまたツマミナ、こういうふうなものも産地化が進んでおりまして、市場価値を高めておるといような点は、皆さん御承知のとおりであろうかと思ひます。しかし、産地は動くということを昔から私は聞いております。神戸のレタス、館野、豊

房のイチゴも永年連作をいたしております。したがいまして、連作障害を起こすようなことについて、私はその産地の方から耳にいたしているような状況でございますが、これらについていかなる措置をお考えか、お伺いいたしたいのでございます。

産地は動くというようなことは、非常に長く作物をつくっておりますと、だんだんと根腐れ病が出るとか、いろんな病気が出て、せっかく今まで非常に高所得であった生産物が、市場価値が非常に低下して、採算に合わなくなる、こういうようなことでございまして、産地が動く、こういうようなことを私は聞いておるわけでございます。

また、新しい農産物の産地化を進めていくために、どんな方法によって行われていくか、これについてもお伺いいたしたいと思います。

次に、2の半島振興対策実施地域として指定を受けた当市といたしまして、農業の役割についてをお伺いいたします。半島振興法に基づいて富津市外17市町村が昭和63年3月31日、南房総と指定を受け、いよいよ半島の袋小路性から脱却するための交通体系の整備、地域の特性を生かした産業振興、恵まれた自然の保全等々、地域開発のための事業について大きな期待を持っております。この計画の中で、道路の整備としては東京湾横断道路の建設、先ほど話がありました東関道千葉木更津線の白浜までの延長等、各路線の改良工事、内房線の複線化等々、関係機関によって進められておりますことは、まことに結構なことと思っております。しかしながら、この計画書の館山市要望分対応状況によりますと、産業の振興として農業関係の要望事項が県営ほ場整備事業及び受精卵移植技術普及事業の2項目でございます。大きな期待外れをいたす感がございます。計画の概要の施設の体系に示されております試験研究機関の整備、集出荷体制の改善、産地の育成事業等は、国、県の公共事業が主体で実施するとも受けとめられますが、これらの内容または解釈についてお伺いをいたします。

次に、3番目の水田農業確立後期対策について伺います。本事業については、毎年行われております米の生産調整のことであろうかと思いますが、昨年は水田農業確立対策と米の需給均衡化緊急対策、こういうふうな名前で実

施されたわけでございます。本年は水田農業確立後期対策、こういうふうになっておるわけでございますが、この異なる点についてお伺いをいたしたいと思ひます。

次に、第2番目の南部地域総合利水計画についてお伺いをいたします。県南部水資源不足解消については、昭和62年より県において各種の水資源を調査検討の結果、房総導水路を活用し、利根川水系に求めることについて、昨年の7月、夷隅郡市、安房郡市の17の市町村長さん並びに議長さんによって、南部地域広域水道企業団の設立促進協議会が設立されました。いよいよ水不足の解消に明るい見通しがつき、特に未給水地域の住民は、給水の一日も早からんことを切望いたしており、関係者の御協力、御努力に対しまして高く評価をいたしておるものでございます。南部圏域広域的水道整備事業の中で、平成元年度において県が南部圏域広域的水道整備計画を策定し、用水供給企業団設立準備を進めておると同時に、区域の設定や浄水場設置のあり方等について調査をいたしておりますが、その調査費として3,900万円を予算計上してございますが、本年度の末もだんだん近づいてまいりますが、それらを踏まえてその後の進捗状況をお示ししたいと思ひます。

次に、未給水地域の関係についてお伺いをいたします。用水供給事業のスケジュール案によりますと、3年度4月、いわゆる来年の4月でございますが、厚生省より水道事業の認可を得て直ちに工事着手とあり、7年度4月一部通水の計画であるが、この間に未給水地域内における配管工事等の設置を行い、皆さんの希望にこたえて、平成7年度に通水する見通しについてをお伺いいたします。

次に、3番目の高齢者事業団の内容についてお伺いいたします。施政方針の中で、高齢者が自らの経験と能力を生かして、就労を通じて生きがいのある充実した生活が送れるよう高齢者事業団を設置するとのことでございますが、時宜を得た計画であろうと思っております。この内容についてお示しをいただきたいと思ひます。

以上3点についてお尋ねをいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 石井議員の御質問にお答えをいたします。

質問の大きな1点は、農業の振興対策についてでございますが、まずその小さな第1点、農産物の適地適産物として各地区において生産されている主な生産物の今後の見通しと対策についてという御質問でございますが、御指摘のように館山市の主な生産物といたしましては、神戸地区のレタスを初めとし、西岬、神戸地区の花弁、館野、豊房地区のイチゴ等が産地化されておりますけれども、これらに続く地域特産物の育成が急務と考え、現在農業振興研究会においてお願いをいたしまして、検討をいたしている段階でございます。

また、連作障害対策並びにバイオテクノロジー事業の調査研究につきましては、千葉県暖地園芸試験場並びに農業改良普及所の指導により、改善等を検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点、半島振興対策実施地域として指定を受けた本市としての農業の役割について、こういう御質問でございますが、半島振興計画は、半島性ゆえに産業基盤及び生活環境等が立ちおくれた地域の広域的かつ総合的な振興を図るため、千葉県が計画を策定したものであり、国、県の公共事業が主体となっております。市町村事業につきましては、広域的な位置づけがなされたものが計画されており、本市が要望した事業のうち県営ほ場整備事業及び受精卵移植技術普及事業が位置づけられているところでございます。これらの事業につきましては、県の5カ年の基本計画あるいは個別の事業計画との整合を図りながら、それぞれ実施されるものでございます。したがって、これら事業の活用により、園芸地帯としての発展を基本に農業の振興を図りたいと考えております。

次に、第3点、水田農業確立後期対策についての御質問でございますが、平成2年度から実施をいたされます水田農業確立対策の後期対策は、基本的には元年度で終了する前期対策の理念を継承するものでございます。元年度の目標面積は、水田農業確立対策と米需給均衡化緊急対策とを合わせて449.

91ヘクタール実施されました。2年度は、緊急対策はなくなりますが、目標面積は緊急対策分を含んだものであり、元年度とほぼ同じ面積の450ヘクタールとなっております。また、望ましい営農に誘導するとの観点から、助成体系の見直しがあり、これらが主な変更内容でございます。

次に、大きな第2点、南部地域総合利水計画についての御質問でございますが、その小さな第1点、その進捗状況でございますが、広域的水道整備計画につきましては、現在県において水利権について国及び関係機関との協議をしております。事業計画では、地形的、水理的条件並びに維持管理面等を考慮しながら、建設費についての検討をしているところでございます。今後の見通しといたしましては、本年7月に用水供給企業団の設立を目途に鋭意準備を進め、当初の予定どおり平成7年度の一部通水に向けて引き続き努力してまいりたいと考えております。用水供給事業の計画に合わせまして、当市も平成2年度に基本計画の作成、3年度に事業認可申請、4年度中に工事着手する計画でございます。

御質問の第2点でございました未給水地域の質問でございますが、ただいま申し上げましたように、当市の水道といたしましての計画を立てておりますので、館野、九重の未給水地域につきましては、用水供給事業の送水管基本ルートの設定を受けまして、受水施設の施工と合わせ配水施設の工事を進めまして、平成7年度に一部給水を開始いたしたいと考えております。

次に、大きな第3点、高齢者事業団に関する御質問でございますが、高齢者の生きがい対策として法人格を有しない任意団体の高齢者事業団を設置しようとするものでございまして、平成2年度におきましてコーディネーター1人を配置いたしまして、高齢者事業団のPRに努め、さらに参加希望者の登録、あわせて仕事を提供してくださる個人、事業所等の開拓を始めようとするものでございます。当面は野外清掃作業、除草、草刈り作業等の軽作業になるものと予想されますが、状況に応じまして他の分野についても検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（林 豊君） 17番議員君。

◎17番(石井 謀君) ただいまの御答弁によりまして、大体了解ができましたんですが、数点お伺いをしたいと思います。

まず、農産物の適地適産物について、今後の見通しと対策についてを再質問させていただきます。御答弁によりますと、「これらに続く地域の特産物の育成が急務と考え、現在農業振興研究会にお願いをして検討している」、このような御答弁があったわけですが、この農業振興研究会、これは昨年度、要するに平成元年度に新しく設置されました地域特産物育成研究をするための委託、この事業の中での関係であるかどうか、まずこれについてお伺いします。

◎議長(林 豊君) 経済部長。

◎経済部長(安西良一君) そのとおりでございます。

◎議長(林 豊君) 17番。

◎17番(石井 謀君) そうしますと、専門的に特産物の育成、研究をしていくんだという団体であるということが確認できたわけですが、この研究会については、何かちょっと私聞いたようなことがあるような気がするんですが、よく承知しておりませんので、この際にこの構成はどういうふうになっているのか、あるいはまだ3月いっぱいが委託の期間であろうかと思いますが、今まで何回ぐらいの会議とかあるいは研究会とか、そういう催しをしたかどうか。それと、でき得れば今までこういうふうな特産物はどうかという具体的な話し合いがあったのかどうか、こちらについてひとつわかりましたらばお示しをいただきたいと思います。

◎議長(林 豊君) 経済部長。

◎経済部長(安西良一君) まず、第1点のメンバー構成でございますけども、安房農業改良普及事務所の普及第1係長の方、それから暖地園芸試験場の花卉研究室長、それから館山農協の農産課長さん、それから農業士で2名、それに学識経験者として1名ということで、合計6名の方々に組織をいただいております。

それから、この会は昨年の5月の16日に新たに発足したわけですが、それ以降の会議、その他の内容でございますが、会議は当初6回開きま

すよということで、このメンバーにより決められたわけですが、まず第1回目といたしましては、5月の18日に会長選挙から始まりまして、予算までいろいろ練っていただいたわけですが、実際的には次の会議から始まりまして、6月の29日に具体的に現状をつかもうということで、市内の転作の状況、実績、それから観光客の入り込みだとか、あるいは館山市のリゾート地域についていろいろ市の方からの事情説明をし、勉強していただいたわけですが。

そして、第3回目には9月の6日に開いたわけですが、これにつきましては県の園芸農業長期構想ということで勉強していただきましたし、またそのほか普及事務所の関係あるいは農業振興関係についてということで、いろいろ御協議をお願いしたわけですが。そして、10月の16、17日と先進地を視察ということで、東伊豆町の状況と農協関係を視察していただいております。そして、農業の生産物にいかにつ加価値をつけるか、あるいは農業の活性化をいかに図るかというようなことで勉強をしていただいております。その生産方式についての販売だとか、あるいは取り組み方についても勉強していただいたというのが、この視察の内容でございます。

そして、ことしになりましてから、1月の3日にこれらのまとめをしておるわけですが。また、この3月に1年間を振り返りまして、いろいろと勉強したこと、あるいは考えられることを総まとめをしよう、まず第1年度としての総まとめをしようということで予定されております。

それから、特産物は何があるかというようなことでございましたが、これにつきましては現段階でいろいろピックアップをしている段階で、館山にはこれが合うよというようなことで、まだそこまで絞り切っておりません。したがって、次年度でこれらのものが館山に適するかどうか、気候風土あるいは土壌に適するか、そういう点が研究されると思います。また、新しく加わるものも当然あるかと思ひます。そういうことで次年度最終的に何を特産物とするか、こういうことで絞り上げていくということで計画されております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 17番。

◎17番（石井 謀君） よくわかりました。

私は、今研究会そのものは非常に期待しておるものでございますが、今部長さんの説明でいろいろといろんなものを検討しているんだということで、1年度あるいは2年度ぐらいまでは、品目を絞っていろいろ検討することも必要だろうと思いますが、私は、一步前進して、そういうような例えば特産物が、これは館山市には合っているんじゃないかというような話が出た場合に、これをそんな大きな面積ということじゃなくて、例えば2アールでもいいし、あるいは3アールでもいい、これを二、三カ所農家に直接展示をして、展示ほをつくって、これを研究をしながら、今の構成メンバーでそこいらを見ていただく。農家の方々は、それを肥培管理等を細かく記録しておく。それを産物ができ上がるまでの記録をとって、そこいらを研究の種にしていくんだというようなことを望んでおるわけでございますが、これらについて何かお考えがございましょうか。ありましたらお示しをいただきたいと思ひます。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まだこれは構想の段階でございますけども、御案内のように農業者の若い方々で農業企画研究会というふうなものを組織してございます。ここでは大体今畜産関係だとかあるいは花卉、あるいは野菜というようなことで、部門別に分かれていろいろ研究をしていただいておりますけども、これらの方々にお願いをいたしまして、そして展示ほを試験的にやってもらう。こういうような構想を現在考えております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 17番。

◎17番（石井 謀君） 次に、連作障害並びにバイオテクノロジー事業の調査研究についてでございますが、これ先ほど県の暖地試験場並びに農業改良普及所の指導により改善策を検討するとのことでございますが、私は試験場とかあるいは普及所、これはお願いすれば協力は惜しまないと思ひます。しかし、双方ともこれは受け持ち区域があり、また単独の事業もいろいろあ

るわけでございますので、館山市のみではございませんので、これは非常に希望どおりにいくかどうか、これらもわからないわけでございますが、連作障害等の早く発見する、あるいは早く措置をするというようなことにおいては、館山市でもって農業技術者を配置して、産地を、週1回でもいいと思います、これを回って巡回指導してもらう。被害が出た場合には、直ちに暖地試験場とかあるいは農業改良普及所へそれを持ち込んで、ともども研究していくんだ、それを早く措置をするんだというようなことはできないものかどうか。今農産課へたまに参りまして見てみますと、巡回指導をやるような体制ではないように私は受けとめておるわけでございますが、そういうふうなことについてはどうかなというふうに考えるわけでございますが、何かほかにうまい方法がありますかどうか。ございましたらひとつお示しをいただきたいと思います。—何か考えておられるようでございますので、すぐにこれも実行に移すということは、やっぱりある程度相談しなきゃいけないと思いますが、これは私の要望にとどめておきます。

次に、バイオテクノロジーについてでございますが、このことについては、前回の12月の議会において、辻田議員が強調されました。私も今の時代はバイテクの時代というふうに私も考えております。しかし、いろいろ各県下の状況等を聞いてみますと、館山市において直ちに全面的にこれを利用するといえますか、供用をするとかというようなことについては、ちょっと困難なような感じでございますが。と申しますのは、千葉県下でバイテクの試験研究をいたしております箇所が、大体4カ所程度あるわけでございますが、これが大体が花卉を主にやっております。千葉県の農業試験場にしても、もちろん暖地試験場にしても花でございますが、そのほかにカンショあるいは里芋、ショウガ、こういうふうな特殊なものを若干やっておるようでございますが、私ども一番要望しておきたいのは、野菜は非常に効果的であろうかというふうに考えておりまして、花はもちろん大事ですが、野菜までもバイテクが利用できるようになったらなというふうに考えて質問したわけでございますが、これは先般も質問があったようですが、大きな額の経費がかかりますので、市の単独でやることについて—やっていただければ非常に結構な

ことなのですが、これは広域的とか、そういうふうなものとよく検討しながら進めていていただきたいということで、これは要望にとどめておきます。

次に、半島振興対策の実施地域としての農業の役割についてをお伺いいたします。ただいま市長さんの方から御説明がございました。今後の農業の振興対策は、県の5カ年基本計画あるいは個別の事業計画によって進めるとのこと、了承をいたしますが、ただし今後はおのこの事業計画に基づいて園芸の振興、そして生鮮食料の供給基地として農業の振興が図られますように、事業の活用を要望いたしまして、次に進みます。

3番目の水田農業確立後期対策の内容について伺いますが、御説明によりますと、対策としての事業名は変わっても、前年とほとんど同様の目標で、面積については450ヘクタールとのことですが、その御答弁の中で、望ましい営農に誘導するとの観点から、助成体系の見直しがあり、これが主な変更内容とのことですが、この助成体系の見直し、これについてひとつ御説明をいただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） きょうも実は地方紙でちょっと私見たんですが、それとは別に私どもで今県の方から指導を仰いでおります状況につきまして、現況で御説明申し上げます。

まず、その体系でございますけども、今まで一般作物につきましては、10アール当たりでございますが、基本額で去年は1万8,000円だったものが、1万3,000円になるということで、若干下がってまいります。それから、永年作物といたしましては2万3,000円だったものが1万8,000円に、それから特別作物といたしましては6,000円だったものが4,000円に、それから預託水田の関係では6,000円だったものが4,000円に、土地改良通年施行の関係では6,000円が4,000円にということで、それぞれ変わってきております。

なお、生産向上の加算額といたしまして、これは新たにといいましょうか、設定されたといいましょうか、そういうものでございますが、一般作物の関係では2万6,000円に――それから大豆、飼料等、これらを含めてでござい

ますが、2万 6,000円、2万円、1万円ということでいろいろ段階があるよう
でございます。それから、永年作物では2万 6,000円、2万円、1万円、
特別作物では 5,000円、 5,000円というようなことで設定されております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 17番議員。

◎17番（石井 謀君） よくわかりましたが、何か大分少なくなるような
ことございまして、農家にとっては実際の経営面積の40%ぐらいは転作し
なくちゃいけないという中で、こういうふうにだんだん、だんだんと — 高
くなるんなら話は別ですが、安くなって、非常に農家離れをするという傾向
が非常に多いわけでございますが、館山市がこれを決定するわけではありま
せんから、質問はこの程度にいたしまして、今後何か機会のあるたびに、や
っぱりそういうふうな農家いじめは余りしないような農政をひとつお願いし
たいと思います。

次に、南部地域総合利水計画について若干質問させていただきます。ただ
いま御説明の中で、維持管理面を考慮しながら、建設費について検討してお
るとのことですが、その内容のうち長柄ダムから送水管の基本ルートはどの
ような計画であるか。また、浄水場、この設置はどこに設置するのか、差し
支えなかったらひとつ御説明いただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） お答えいたします。

まず、長柄ダムからの送水管の基本ルートはどのような計画かということ
でございますが、管ルートは現在促進協議会で検討しております。導水、
それから送水管の基本ルートにつきましては、工事の施行性及び経済性の観
点から、おおむね長柄ダムから大多喜町、勝浦市、天津小湊町を経て鴨川市
の長狭街道より富山町を経由して、三芳村より館山市に至るルートが最適と
されてございます。

なお、今後道路管理者と関係機関で調整を図りながら、さらに詳細な検討
をしていくというふうに聞いてございます。

それから、浄水場の施設の設置場所についてでございますが、浄水場の位

置につきましては、まず導水、送水管の延長ができるだけ短くなる等の水理的な条件、それから建設費ができるだけ低く抑えられる等の地理的な条件、それからもう一つ、維持管理及び通勤上有利であるというような社会的条件を総合して選定すべきと考えられます。以上3点を条件に考慮して適切な位置は、夷隅地区になるのではなかろうかと思います。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 17番。

◎17番（石井 謀君） 大体わかりました。しかし、もう少しお伺いしたいんですが、時間の関係もございますので、関連的なことについて、ひとつお伺いしたいと思います。実は水質検査について、先般九重と、それから館野地区の未給水地域の中で水質検査を実施するんだということで、区長が参りまして、私も、九重で二十三、四名だと思いましたが、抽出検査の中に加わったわけでございますが、そこいらの結果についてわかりましたらひとつ。

◎議長（林 豊君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 館野、九重地区の水質検査の結果と今後の指導方針でございますが、館野、九重両地区の水道促進協議会とお話し合い持ちまして、館野地区31件、九重地区23件の水質検査を実施いたしましたわけでございます。館野地区は、2月の27日に採水をいたしましたので、まだ結果は出ておりません。九重地区につきましては、12月の18日に実施をいたしまして、飲料水適が6件、不適が2件、消毒または煮沸後飲用が15件と結果が出ております。採水が冬期でございましたので、気温の変化等で6月、7月の雨量が多い時期にもう一度水質検査を実施してみたい。これは、総合的に結果を取りまとめいたしまして、その結果を分析いたし、井戸水の処理方法、そういったものを研究いたしまして、指針をつくって皆さん方にお示しをしたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 17番。

◎17番（石井 謀君） よくわかりました。

続きまして、高齢者事業団について若干お伺いしたいと思いますが、これは簡単に結構ですから、4つばかりお願いしたいと思いますが、お答えをいただきたいと思います。まず1つ目は、高齢者事業団とシルバー人材センター、この異なる点についてお聞かせをいただきたい。

それから、2つ目は事業団に対して国及び県において援助の措置はあるかどうか。

それから、3つ目は平成2年度はコーディネーター1人を配置してPRを実施、参加希望者の登録をするとのことですが、福祉事務所の応援を考えているのかどうか。1人にやらせるのかどうか。新しい仕事ということで、1人ではちょっと無理じゃないかなというふうな感じがしますが、これらについてひとつお伺いしたいと思います。

4つ目は、今回事業団を新設するに当たり、予算的な措置はいろいろあるようでございますが、総体的にどのくらいの予算であるか、ひとつお示しをいただきたいと思います。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） まず、高齢者事業団とシルバー人材センターとの異なる点ということでございますが、大きな相違点は、高齢者事業団は法人格を有しない任意団体でございまして、会員数等の制約もございません。また、会員からの会費徴収は任意でございます。これに対しましてシルバー人材センターは、法人格を有しまして、会員数は150人以上、そして年間の就労延べ人員が6,000人日以上というふうに定められておりまして、会員からの徴収金も義務づけられているわけでございます。

次に、第2点の事業団に対して国及び県において補助措置があるかということでございますが、これは県の補助事業としまして、高齢者生きがい就労団体育成事業補助金というのがございまして、これは高齢者の自主的団体の安定的発展を図るため、市町村が一定の補助を行う場合、当該補助に要する経費の一部を補助するということで、事業団直接ではなくて、市がその事業団に補助をする場合に、市に対して補助があるということでございます。

それから、3点目のコーディネーター1人では大変ではないかということ

でございますが、確かに出発時は大変なことだと思います。したがって、
当分の間は行政としてバックアップして協力していく必要がある、このよう
に考えております。

次の予算措置関係でございますが、高齢者事業団関係の予算といたしまし
ては、総額で86万 1,000円を計上してお願いしてございます。主なものは、
コーディネーターの報償費ということ。それからあとは、需用費 ― 文具費、
印刷費等、さらにはまた事故があった場合の保険等も考えておりまして、総
額でとにかく86万 1,000円というふうなことでございます。

◎議長（林 豊君） 以上で17番議員石井 謀君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開をいたします。

午前11時51分 休憩

午後 1時03分 再開

◎議長（林 豊君） 午後の出席議員数23名、休憩前に引き続き会議を開
きます。

次、1番議員脇田安保君。御登壇願います。

（1番議員脇田安保君登壇）

◎1番（脇田安保君） 私は、既に通告してございます3点にわたり御質問
申し上げます。

第1点目に、市営住宅の建設と管理に関する件について、第2点目、伸び
盛りの生徒たちにパソコン教育を、さらに第3点目に那古地区に建設予定の
山彦マンション建設について御質問いたします。

最初の市営住宅の建設と管理に関する件について、市長の施政方針の中に
は次のようにあります。「市営住宅につきましては、老朽化しております大
賀住宅を年次的に整備するため、本年度から移住先としての真倉住宅の建設
を計画してまいります」というように、市営住宅の移転整備が掲げられてお
りますが、当市の市営住宅の建設は、御承知のように公営住宅法の精神にの
っとり、今まで順次進められてきております。この公営住宅法の目的は、
「国及び地方公共団体が協力して、健康で文化的な生活を営むに足る住宅
を建設し、これを住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸する

ことにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とする」というようにその目的が制定されています。

さて、住宅に快適さを求めるいわゆるアメニティションの時代が言われて久しい。かつて私たち国民には、敗戦後の物不足の時代から生活防衛のために必死になって働いたが、今や1人当たり国民所得は世界のトップクラスになり、物はちまたにあふれている時代に入っています。しかし、国民はその世界一という豊かさを実感しているかといえば、残念ながらノーなのです。そして、その豊かさを実感できない最大の原因が、貧弱な住宅事情にあるのです。つまり諸外国からウサギ小屋と言われているように、住宅1つ取り上げて解決をしなければならない問題点が多くあります。そこで、早急に土地基本法や住宅基本法の改善が急がなければならないのですが、しかし現実には特に低所得者や母子家庭等の住宅難は急を要する切実な問題です。そして、その人たちに手を差し伸べることができるのは地方自治体の小さな要の役目であり、責務と思うわけです。

そこで、質問ですが、全市的に見て老朽化も目立っている市営住宅もありますし、今後の市営住宅の建設予定をこの際明らかにしていただきたいと思うのであります。

なお、市営住宅地内に必要な共同施設、つまり集会所の設置については、集会所がなくて、青空集会をしていたり、また葬祭時や法事に施設がなくて大変困っているという市民の声も耳にしますが、その点につきまして当局はどのように考えておりますか、お答えを願いたいと思います。

次に、第2点目、伸び盛りの生徒たちにパソコン教育を。私が63年6月議会でも質問を申し上げましたが、再度質問をいたします。文部省は、平成5年度から中学校の技術家庭科で情報を基礎としてコンピューター学習が導入されることのようにあります。私は、コンピューター教育については、高度情報化社会に向けての能力育成に大変に役立つ教育だと思います。また、パソコン操作の指導はもちろん、機能を十分に活用しながら、幅広く教育活動に利用していけるのではないかと思います。私の調査によりますと、大阪府松原市では、コンピューターに対する正しい認識と情報社会に対応するため

の基礎知識を、伸び盛りの中学時代にしっかり身につけていくために、週4時間あるゆとりの時間のうち1時間をパソコンの授業に充ててスタートし、最初のうちは恐る恐る操作をしていた生徒でしたが、なれてくると今度は先生の方が生徒に追いつくのがやっとなというほどの上達を示したそうです。今まで余り積極的に授業に参加していなかった生徒が進んで参加するようになったり、生徒と先生が一緒になって取り組むことが、新たなコミュニケーションが図れたなど、思わぬ効果が上がっていったようであります。

また、鴨川市では平成2年度から全中学校に教育用パソコンが導入されることになりました。これは、鴨川、長狭、江見の3中学校で同時に導入されたパソコンは、5年間のリースで、リース料金は年額1,140万円で、各中学校の21台のうち1台は教師用、20台が生徒用です。そして、現在は先生方によるパソコン研修を中心に生徒指導のための基本操作やプログラムの仕組みについて研修を行っているということです。

質問であります、平成2年度までに購入予定になっている小中学校の教師用としてのパソコンについて、その後どのようなになっておりますか。

2点目、平成5年度から技術家庭科で情報基礎として導入されるコンピューター学習についての対応はどうか、当局の御見解をお聞かせいただきたいと思えます。

次に、3点目、那古地区に建設予定の山彦マンション建設について御質問いたします。リゾートマンションは、住民に、そして自治体にどのような影響をもたらすかという問題であります、さまざまな角度から考えられるのであります。まず第1に、日照権が阻害されないかどうかという問題であります、日照権の権利は、これは申すまでもなく人間としての最低の権利であり、国民が平等に享受できるのは、まさに生命の本源たる太陽によってこそ人間がはぐくまれるという哲理なのであります。これは、だれ人といえども人間からこれを奪うことをしてはならないのであります。次に、ビル風による風害であります。せっかくオゾンの多量に含まれた健康的な空気が、マンションの建設によってたびたび空気の流れを変えてしまうということは、自然の破壊と言っても過言ではないと思うのであります。次に、電波障害に

については、これは市民の日常生活にとってかなり深刻な問題となっております。また、海の近くにこれが建設されるとすれば、館山市の古来から有するすばらしい景観を損ねているということになると思うのです。そして、地下水が不足をしたりしないかという不安もあります。また、館山市のおぼつかない水がめでは、水不足の心配も出てきます。また、マンションの住民が東京の人であったりする場合、税徴収にも困難を来すのではないかという不安もぬぐい切れません。このようにリゾートマンションの問題点をざっと数えただけでもこれだけあります。私は、リゾートマンションが住民のために、館山市のためにプラスになるものであるとすれば、まずこれらの心配事に対してスポットを当てて説明を図らなければならないと思うのであります。市が住民の側に立つものであるとすれば、まずこれらの問題点に関して、市は1つ1つどのように考えているか、明らかにしていただきたいと思うのです。

私の質問をここでもう一度整理をし、要約してみますと、次のようになります。1、日照権の害について当局はどういう見解を持っているのですか。2、ビル風についてはどうですか。3、電波障害についてはどう思いますか。4、地下水問題はどうですか。5、水不足は大丈夫ですか。6、税収の問題点についてはどうですか。6点について私は当市の御見解をぜひ承りたいと思います。

以上、大きく3点にわたり質問を申し上げました。御答弁によりまして、再質問をさせていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 脇田議員の質問にお答えをいたします。

第1点は、市営住宅の建設と管理に関する件でございますが、まず大賀市営住宅につきましては、建設後25年から27年を経過し、維持管理にも支障が出てきておりますので、住宅の建設を計画いたしました。その建てかえ計画の中で、真倉市営住宅の隣地に新たに建設しようとするものでございます。この計画内容につきましては、鉄筋コンクリートづくり3階建て、第2種住宅、1棟18戸を予定し、平成2年度設計委託、平成3年度建設を予定してお

ります。なお、大賀住宅につきましては平成8年度建設を目途として考えております。

次に、市営住宅地に必要な共同施設の設置の問題でございますが、この件につきましては今後前向きに検討してまいりたいと考えております。

大きな第2点につきましては、教育長より御答弁を申し上げます。

次に、第3点、那古地区に建設予定の山彦マンション建設についての市の見解はどうかという御質問でございますが、第1点、日照の害についての問題でございますが、建築基準法による住居地域における日影による建築物の制限の範囲内であると思われます。

小さな第2点、ビル風による被害が生じた場合は、事業主の責任において必要な措置を講ずるよう指導をいたしております。

小さな第3点、電波障害が発生した場合にも、事業主の責任においてその障害対策として必要な措置を講ずるよう指導しております。

次に第4点、地下水の問題でございますが、給水計画につきましては、1日の最大使用水量が110トン見込まれており、このうち三芳水道企業団から既存の水道管13ミリにより20トン程度の給水を受け、残り90トンを井戸による自己水源を確保することとなっております。周辺井戸への影響につきましては、館山市宅地等開発事業に関する指導要綱に基づき、開発事業者に対し既存井戸の水位調査及び試験井戸の揚水試験等の調査結果報告書を提出させ、適切な指導をしてまいります。

第6点、徴税の問題でございますが、このマンションが建設されることによって、市民税の税収はどの程度見込まれるかという御質問でございますが、御案内のとおり市民税は別荘として使用するのか、あるいは居住用とするかにより課税が異なるものでございます。また、居住する場合につきましても、所得の多寡により課税するものでございますので、現時点では購入者の所得階層が不明のため予測のつかないところでございます。なお、別荘として使用する場合は、所有者に均等割が課税されることになります。

以上、答弁を終わります。

◎議長（林 豊君） 教育長。

(教育長福原 修君登壇)

◎教育長(福原 修君) お答えいたします。

パソコン教育の問題でございますが、来る21世紀は情報化の時代と言われ、学校教育においても児童、生徒に情報活用能力を育成する必要性が叫ばれております。このことを背景といたしまして、新学習指導要領の中学校技術家庭科の中に、情報基礎という領域が設けられました。情報基礎は、コンピューターの操作等を通して、その役割と機能について学習し、情報を適切に活用する基礎的な能力を養うことをねらいといたしております。さらに、主な学習内容といたしましては、コンピューターの仕組み、基本操作及びプログラムの作成などを習得することになっております。

そして、御質問の大きな2の1でございますが、市内各小中学校へのパソコン導入計画につきましては、1988年度、昭和63年度に6校、1989年度、平成元年度に4校、1990年度、来年度でございますが、5校に導入いたしまして終了する予定でございます。

次に、小さな第2点でございますが、この新指導要領に対応するため、1991年度、平成3年度に2校、1992年度、平成4年度に2校、各21台ずつのコンピューターを市内4中学校に導入して、新しい時代の要請に対応してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長(林 豊君) 1番議員。

◎1番(脇田安保君) ただいまの御答弁でおおむね理解いたしましたが、なお細かい点ではございますが、何点かお聞きしていきたいと思っております。

まず最初に、大賀の市営住宅を年次的に整備するというところで、その移り先として真倉の住宅建設計画を、平成3年度に建設するんだ、3階建てで18世帯ということでありましたが、3階にされた根拠——今まで那古にしても、萱野にしても4階建てが主に使われているわけです。3階建てと4階建てと、これ建築費なんかにもいろいろ関係して、入居する際の家賃も大分違ってくるんじゃないかということで、なぜ3階にしたのか。4階、5階の建物の計画はされないのか、その点まず伺います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 御案内のように、ここの地域が第2種の住居専用地域でございまして、そういうようなことから周辺の住居環境といいたしうか、そういった点を考慮いたしまして、一昨年建てました住宅も、今回も3階建てということで計画をさせていただいております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1番。

◎1番（脇田安保君） ちょっと細かいことになるんですけども、建築工法、シート工法というのを採用されているようですけども、それでシート工法というのは、要するにつなぎ合わせて建物をつくっていくんですけども、屋根の部分がつなぎ合わせのためにシートを張って防水をされているわけです。それで、そのときに今現在各住宅、真倉はよくわからないんですけども、各住宅の屋根を見ますと、いっぱいテレビのアンテナが立っているわけです。それが腐ったりして、雨漏りの原因になっているという話をちょこっと聞くんですけども、その点についてアンテナ、要するに共同アンテナ、いろいろ問題もあるかと思うんですけども、今後建てる住宅において共同的なアンテナの工法というのは考えられないんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） これから設計等に入るわけでございますので、その辺も含めまして検討させていただきたいと存じます。

◎議長（林 豊君） 1番。

◎1番（脇田安保君） 次に移りますけども、真倉の方はよくわかりました。大賀の方の平成8年から建設予定ということでありますので、大分先ですけども、大まか尋ねていきたい。まだ決まっているわけじゃないと思うんですけども、その概要について二、三お尋ねしておきます。

私が現在質問している中で、集会施設ということを特に強調されているんですけども、大賀の住宅について、現在と同じような1戸建ての住宅にするのか、それとも高層住宅、3階ないし4階あるいは5階にしていくなのか、ちょっとその辺わからないんですけども、わかりましたらその点要するにお答

え願いたいと思いますけども。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 大賀のこれから建てる住宅ということでございますが、現在のところ最終的な煮詰め等はまだできておりません。そういうことで、ただ考え方といたしましては、先ほど市長の方から御答弁がありましたように、前向きに集会施設については検討していきたいというふうなことでございます。できれば1つの建物の中に織り込んでいきたいというふうな考え方を持っております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1番議員。

◎1番（脇田安保君） これは要望というか、いろいろ聞かれるんですけども、一番特に問題だったのは集会施設と、それと駐車場、今市営住宅でえらく問題になっているんですけども、あちらこちらで駐車場、1軒のうちに2台持っていたり、駐車スペースがないで、トラブルの原因になっているんだということで、やはりこれから今後大賀で建てられる住宅約1万坪ぐらいあるんですけども、そこにはやはり駐車場のスペース、1戸1スペースぐらいを確保できるぐらいの余裕を持ってひとつお願いしたい。これは要望にしておきます。

次に移りますけども、まず家賃のことで何点か伺いたいと思います。当市の人口割からいって、市営住宅の戸数に制限がありますか。この点まずお伺いします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 人口割での保有率といいたしましょうか、そういうものについてはございませんですが、御参考までに申し上げますと、千葉県下の情勢では一番高いのが茂原市でございまして、保有率が0.97ということでございます。次に、銚子市が0.88ということで第2位ということでございます。それから、3番目が旭市でございまして、0.79、それから勝浦市が0.74ということで4番目でございます。次に、八日市場市が0.73で5番目、6番目が千葉市で0.67でございます。それで、野田市が0.61で7番目というこ

とで、館山市はそれに次いで0.57という保有率でございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） 次に、住宅に関してですけれども、公営住宅法では家賃となっていて取り上げられているんですけれども、地方自治法では使用料と、こうなっております。この点どのように違うのか、ちょっと私も理解しないんですけれども。それとまた公営住宅法でいきますと、家賃の算出方法があらうかと思うんですけれども、これは地価とか、あるいは建物の建築等の経費等かかった費用に対して算出されると思いますけれども、この点簡単でよろしいですから、ちょっとこのようにやるということを、お知らせ願えればと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 確かに議員さんおっしゃいますように、公営住宅法では家賃、それから自治法上では使用料というふうなことで使っておるわけでございますが、これは公営住宅法上の営造物ということで、本質的にいいますと、使用料ではなくて、やはり賃貸契約上の賃料にすぎないというようなことで、どちらも同じものですよというようなことになっております。

それからあと、家賃の算出方法ということでございますが、公営住宅法の12条によりまして、限度額を算出したしまして、その範囲内で事業主体である市が定めることになっております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） 次に、管理について何点か伺いたいんですけれども、私の管理の面で何点かですけれども、現在私が聞いている範囲で、古い住宅、今一番古いのは昭和三十何年ですか、建てられた住宅、最近は昨年ですけれども。その中で電気の設備なんです、電気の設備にSブレーカー——Sブレーカーは普通通称アンペアブレーカーというんですけれども、それとELBブレーカーというのは漏電ブレーカーというんですけれども、漏電ブレーカーを設置されていない住宅があるようなんです。ということは、今まで何回か東

電、保安協会の方で調べた時点で、漏電があった。それで、どこはおっしゃいませんけども、二、三の住宅でありまして、防災の面あるいは災害の面からいって、これはちょっと危険じゃないかということをちょっと言われたものですから、今回この際明らかにしているんですけども、それで漏電ブレーカーを現在取りつけてある住宅、まだこれは取りつけていない——この漏電ブレーカーそのものは必ず取り付けなさいという規約にはなっていないんですけども、自主的に取りつける方が、使用者の方に安心な面があるわけです。また、保安の面からありますので、この辺現在古い住宅に対してつけてあるところとつけていないところがわかりましたら、お願いしたいと思います。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 比較的新しい住宅でございまして、那古住宅と真倉住宅ではブレーカーはつけてございます。そのほかはついておりません。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） 2カ所ということですけども、皆さん御存じのようにこれ洗濯機とか、ふろ場とか、あるいは水気のあるところに対して電気が漏れたときに、自動的に危険を知らせるために遮断する弁が漏電ブレーカーなわけですけども、これがつけられていないということは——必ずつけなきゃいけないということじゃないんですけども、つけた方が私は安全の面からいって、もし事故が起きた場合に、やっぱり公営の住宅であるわけでありますので、これはぜひとも早急につけていただく必要があるかと、このように思いますけども、この点はいかがですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 計画的にできるだけ早く措置したいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） それと関連ですけども、保安、防災の面から、市営

住宅には高層住宅ということで、やっぱり火災の予防のために最低限必要な防火設備というんですか、機器ですか、それが現在全住宅に備えなけりゃならないのか、備えていくものなのか、その点いかがなものでですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 一定規模内の耐火建築物でございますので、消火栓の設置の対象とならないかというようなことでございますが、真倉住宅には消火器を実は設置してございます。そのほか各階段に非常照明 — あるいは那古住宅、真倉住宅等にはこういったものは設置されておるといのが現在の状況でございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） つけてあるところと、つけていないところがあるそうなんですけども、やはりこれも1つの火災予防という意味から、全住宅を対象としてぜひとも最低限必要な消火器等を設置されることを要望しておきます。

次に移りますけども、市営住宅の敷金のことについて何点かお聞きしていきたいと思います。御存じのように、公営住宅法第12条の3に、「事業主体は、公営住宅の入居者から三月分の家賃に相当する金額の範囲内において敷金を徴収することができる」、また市条例で16条に敷金がございます。この敷金の処理方法についてお伺いいたします。まず、我が市では何カ月分の敷金を徴収しているのですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 住宅に入居する時点で家賃の3カ月分をいただいております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） 3 カ月分の徴収ということでありますから、当然預かっている敷金はどこかで管理されていると思うんですけども、管理されて、その運用はどのようになっていますか。

◎議長（林 豊君） 収入役。

◎収入役（渡辺 弘君） まず、現金の保管につきましては、収入役の職務権限でございますので、私が管理をいたしております。

それから、運用につきましてですが、2月末現在におきます敷金の総額が679万ほどでございます。したがって、この敷金の総額だけでは定期預金なり、またNCD — 譲渡性預金等の自由金利商品に伴う運用は不可能でございますので、歳計現金、また他の歳入歳出外現金と合わせまして大口定期預金なり、またNCD等によって運用をいたしております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） わかりました。

住宅法によって、運用益を入居者の共同の利便等に使用するんだという法があるんですけども、いろいろ私も読んで調べて勉強してみたんですけども、なかなか難しい面があるかなということは感ずるんです。私は最初質問した中で、やっぱり集会施設ということは、特に一定の施設を指してはまことに恐縮ですけども、私の近くの萱野住宅では、特に集会施設が必要なんだと前から要望されていたようであります。この法が変わったのは53年度ですか、私の記憶では53年と覚えているんですけども、それでその運用益を共同施設に極力充てなさい、努力しなさいという条項があるんです。その点で萱野においては青空 — とにかく部落の集会施設も貸してくれないんだ。自分たちの共同住宅だけで物事を進めていく上において、皆さんが集まる場所は、長のところへ集まるには狭過ぎる。あるいは1 部屋長の名前で貸していただきたいということは、まず不可能な状態でありますので、ですからまずやはり早い時期に共同施設を要望されているところに、極力努めていただきたい、そのように思いますが、再度その点伺いたいんですけども。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 萱野住宅ということでございますが、萱野住宅は御案内のように、あそこは国分の共有地をお借りしているところでございます。したがって、まず用地を確保してからでないと、建物が建たないというようなことでございますので、早速また関係者とお話し合いを進めま

して、できるだけ早い時期にそういうものをつくっていききたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） 市営住宅の方に関しては、わかりましたんですけども、萱野以外の住宅においても、やはり皆さんがコミュニケーションを図る意味で、集会所をなるべく要望に沿ってお願いしたいということをつけ加えておきます。

次に移ります。パソコン教育の点について教育長さんひとつお願いしたいんですけども、先ほどの御答弁で、平成3年に2校、平成4年に2校という御答弁であります。なぜ全校に——鴨川市の場合にはことし平成2年度に3校、全中学にパソコンを導入するわけですけども、館山市は平成3年、平成4年と2年に分けて購入するようですが、このパソコンはリースで行うんですか、それとも買い取りで行う予定なんですか、その点わかりましたならばお願いしたいんですけども。

◎議長（林 豊君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

リースか、買い取りかということで、現在のところいろいろと計算をいたしておりますけれども、買い取れば国から半額の補助がある。リースの場合は補助がないということで、細かな計算をしますと、どうも経済的には買い取りの方がよろしいという考え方に立っております。また、買い取りの1つの欠陥といたしましては、一遍買ってしまうと、型が変わるじゃないかということで、こういう不安もございますけども、中学生の教育にそれほど高級なタイプのを次から次へと与えて教育をする必要はないんじゃないか。1つの基礎的な教育ならば、古い型でも、古くなってもよろしいんじゃないかというような考え方もございまして、再来年度の問題になりますけども、現在では買い取りの方に傾いております。

それから、なぜ2年度にわたるかということですが、中学の新学習指導要領は正式には平成5年度から、1993年度から実施されるわけでございまして、

それまでは移行措置と称しまして、できたならばやったらどうかという程度のものでございます。したがいまして、それほど急いで導入して、急いですぐに教育課程の中に入れるということは必要ないんじゃないかという考え方が1つございます。それからもう一つは、それだけ余裕がありますので、最初2校導入してみて、いろいろな欠陥もあるだろうし、いろいろな指導上の難しさも出てくるだろうから、より一層充実を期してから次の2校をやってもよろしいんじゃないか、こういうような考え方が、このパソコン教育につきまして研究をしております教育情報委員会というのがございまして、教育情報委員会からもそのような意見があったものですから、現時点におきましては平成3年度において2校、平成4年度において2校、こういうような考え方になっているわけでございます。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 1番議員。

◎1番（脇田安保君） 2校ずつということですけども、そうしますと例えば平成3年度に一中、二中、4年度に三中、房南中学ということになるかと思うんですけども、そうするとやっぱり1年おくれ——今高校を見ても御存じのように、やはり情報社会ということで、大分各学校情報基礎科というんですかな、科が新設されておるわけです。そうしますと、やはりちょうど平成3年度の3年生は、片方の中学はある程度基礎の方はやっていくけども、もう2校は全然さわらずに卒業していくんだというふうな結果になるんじゃないか。ということは、私が思うには何か学校間の差があるんじゃないか。あるいはおくれる方の児童がやはりちょっとかわいそうじゃないかな、そういうふうな感も受けるんですけども、どうしてもということであるかと思うんですけども、やはり同時にこれは導入できれば一番よろしいわけです。ですから、その点を特に留意されて、これからお願いしたい。

それともう一点、例えば今例として挙げたんですけども、房南中学と三中でいいますと、児童数は4分の1なわけです。そうすると、同じ学校に対して20台ずつということになりますと、やはり1人当たりの使用量というんですか、ちょっとそこらよくわからないんですけども、4人に1台という感じ

と、1台に1人というふうなとらえ方になるんですけども、この点はいかようなものでしょうか。

◎議長（林 豊君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 原則といたしまして、生徒2名に1台というような考え方に立っておりますから、もし生徒が40名いた場合に、生徒20台に教師用1台というふうな考え方に立っているわけでございまして、もし生徒数が少なければ、当然台数は減るだろうと思います。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 1番議員。

◎1番（脇田安寿君） 台数が減るということは、1学校20台を切るというふうにとるんですか。

◎議長（林 豊君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） そうでございます。

◎議長（林 豊君） 1番。

◎1番（脇田安寿君） そうなりますと、これ技術家庭の文部省から言われている時間というのがあるわけです。時間割があつて、そうしますと月に1クラスで、40人しかないクラスの場合に、半々で20台で20名ずつという原則だと思うんですけども、そうしますと使えない生徒が出てくるんじゃないかと思うんですけども。

◎議長（林 豊君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 中学校も40名学級になるわけでございますので、したがひまして、40名を基礎として計算いたしております。したがひまして、20台というのは2名に1台置けば、教育上はよろしいだろう、こういうような考え方でおりまして、したがひまして生徒数が減れば、2名に1台という考え方に立つて言うならば、当然20台を切るわけでございます。本格的にやるならば、これは1名に1台というのがよろしいわけでございますが、それはとても現在のところ予算等も考えなければいけませんので、それは無理かと考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 1 番議員。

◎1 番（脇田安保君） わかりました。

最後に、マンションに関してであります、昨年12月にもほかのところで御質問いたしましたが、特に私がこのマンションに関して思うことは、海のすぐ際に建てられるわけです。これが建設されると、本当に景観という面から、景観が損なわれるんじゃないか。そういうことを本当に私は思うんですけども、やはり景観についてマッチされているのかどうか、最後にその点伺います。

◎議長（林 豊君） 1 番議員君に申し上げます。時間が参りましたので、この1 点にだけ答弁を求めて、質問を打ち切りたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 景観についての判断でございますが、いろいろ個々の主観によりまして格差もあるわけでございますが、一定の数値化された基準を設けることは、非常に困難であるわけでございますが、個人の財産権に関する問題もございますし、市といたしましては事業者に進んで街並み景観形成に協力するよう指導をしまいたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 以上で1 番議員脇田安保君の質問を終わります。

次、2 番議員永井龍平君。御登壇願います。

（2 番議員永井龍平君登壇）

◎2 番（永井龍平君） 私は、今回平成3 年度を初年度とする第2 期館山市総合5 カ年計画の基本資料となります市民意識調査について御質問をいたします。

この市民意識調査の性質を一言で言いあらわすならば、市民が常日ごろから考えておられる要望や意見、声であり、市政に対する発言であると思いうわけであります。私は、市政に携わる一人として、常々市民の声を市政に反映し、光を当て、市民のための政治をと活動をしてまいっております。こ

の市民意識調査は、当館山市にとって非常に重要であり、将来を見通すコンパスであると思っております。

市長は、平成2年度の施政方針において、「本市が誇る豊かな自然を保全し、長年にわたって培われてまいりました歴史と文化を受け継ぎはぐくむことが、産業振興や都市的施設整備と一体となつてこそ、精神的にも経済的にも満ち足りた地域を築くことにもつながるものでございます。このまちに住む人々が愛着を持てるまちでなければ、訪れる人々に満足してもらえるまちとはならないと考えますので、市民の参加を得て自由な発想と創造性を大切にしながら、本市の特性を十分に生かした、個性的なまちを築き上げたいと存じます。本年度は、基本構想に基づく第1期5カ年計画の最終年であり、平成3年度を初年度とする、次期5カ年計画策定の年でございます。これまで進めてまいりました生活環境の整備、健康福祉の充実、文化教育の向上、産業の振興、コミュニティづくりの諸施策をさらに総合的に進め、将来都市像『活力ある文化福祉都市』の実現を目指す覚悟でございます」と平成2年度に対する御決意を述べておられます。次期5カ年計画の平成3年から平成7年のこの5年間は、当館山市にとりまして、大変重要な5年間と思っております。と申しますのは、最終年の平成7年にはリゾート開発の進展と東関東自動車道館山線、また東京湾横断道路等が完成し、当館山市も半島性から脱却し、大きく発展に向かう大事な5年間であります。

先般御説明がありました基本計画の策定、市民参加の項で、「計画策定に当たっては、市議会議員の皆様を初めとし、市民意識調査、請願、陳情等の要望、さらには総合計画審議会等の機会を活用して、市民の意見を計画に反映していく」との御説明がありました。私は、この説明のありました中の市民意識調査についてお伺いをいたすものでございます。

この市民意識調査の目的は、市民の生活意識、満足度や市政各分野にわたっての市民の意向を調査することにより、都市基盤整備などのハードからコミュニティ施設などのソフトまでの行政におけるさまざまな分野の計画策定、政策立案のための基礎資料とし、また調査項目として定住意識、生活環境評価、日常生活意識、施策に対する意向等で、満20歳以上の市民1,000人を対

象に調査したようでございます。

それでは、御質問をいたしますが、前回昭和59年7月の調査では、調査対象に市職員 200人、高校2年生約 1,800人、一般市民 1,000人の調査を行ったようでございますが、今回の調査では前回調査をした市職員、また高校2年生の調査もした方がよかったかと考えますが、どのような理由で調査しなかったのか、御説明をいただきたいと思います。

第2点目の御質問でございますが、日常生活の評価、またこの調査の総括と考えられます住みやすさについてでございますが、今回の調査によりますと、住みよいが29.7%、普通が55.6%、住みにくいが14%、無回答 0.7%になっております。前回5年前の調査によりますと、住みよいが33%、普通が51%、住みにくいが9%、無回答が1%となっております。これを比較いたしますと、住みよいが前回に比べ 3.3%減、普通が 1.4%減、住みにくいが5%ふえているのでございます。その他無回答 0.3%の減と厳しい意識調査の結果が出たのであります。市長さんは、施政方針の中で「このまちに住む人々が愛着を持てるまちでなければ、訪れる人々に満足してもらえるまちとはならない」と申しておりますが、この5年間で住みよいが 3.3%減少し、住みにくいが5%も増大したのであります。市長さんは、この調査結果を見てどのようにお考えなのか、まずお尋ねをいたします。

次に、第3点目の御質問であります、リゾート開発に関する考え方についてであります。この調査結果によりますと、自然保護を優先させ、これと矛盾しないような開発だけを進めるべきであるが40.1%、地域全体の振興やメリットと比較検討して開発を進めるべきであるが29.0%、自然保護が多少欠けるところがあっても、多くの人に利益がもたされる以上、開発を進めるべきである14.8%となっておりますが、住みよい理由の中で、自然環境に恵まれているが47.8%で第1位になっております。このリゾート開発による自然環境の破壊が懸念されている現在、この調査は当館山市にとって重要な参考資料と考えます。この調査によりますと、自然環境保護優先が40.1%と多数を占めているにもかかわらず、反面自然保護が多少欠けるところがあっても、利益があるなら開発を進めるべきだと考える人が14.8%もいるという

ことについて、自然保護か、利益かの絡み合いについて、市長さんはどのような見解をお持ちになっているかお尋ねをいたします。

次に、大きな第2点、河川、海域の浄化対策について御質問を申し上げます。この問題は、何回となく議会に取り上げられ、質問がなされております。しかしながら、ここ十数年海、川の汚染はひどくなり、昨年はついに相浜海水浴場の水質が市の調査で最悪の成績結果になり、海水浴場の開設ができず、地元住民に、また海水浴客に多大の悪影響を及ぼしたのでございます。本年もあと3カ月余りで夏季観光海水浴シーズンを迎えようとしております。毎年この季節になりますと、地元住民を初め当局、各関係者にとりまして、大変頭を悩ます時期であり、私も海水浴場開設前に実施される水質検査には、大きな懸念を抱いておるのでございます。

先ほど質問いたしました市民意識調査の中にも、自然環境保全、河川、海域等の浄化の設問で63.3%と最も多くの回答があり、大変に高い関心度を示しております。この海、川の浄化対策に対して当局もさまざまな対応をしてきております。その対策を挙げてみますと、1、市民の意識の高揚を図るために、三角コーナー、水切りごみ袋の配布、2、河川の浄化として人工芝、礫間浄化、3、家庭用小型合併浄化槽の補助制度による普及、4、河川、排水路への塩素滅菌、そして平成元年5月には三軒町排水処理施設の設置等、さまざまな施策を講じてまいったようですが、平成2年、新年度に当たり、また海水浴シーズンを間近に控えて、私はこれらの施策の総括と今後の対策について御質問をいたします。

まず第1に、今まで行ってきた各施策の成果について御説明をお願いいたします。

第2に、三軒町排水処理施設の設置効果はどうですか。

第3に、汐入川流域の排水路に排水処理施設の設置を考えておられますかどうかお尋ねをいたします。

以上、御質問を申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 永井議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点は、平成3年度を初年度とする次期5カ年計画の基本資料となる市民意識調査について、こういう御質問でございますが、第1点は前は3階層にわたって調査を行ったが、今回は一般市民のみに調査したのはどういうことか、こういう御質問でございますが、前回実施いたしました市民意識調査の目的は、昭和61年度から平成12年度までの本市の長期ビジョンであります基本構想の策定のための資料として、一般市民を対象とした調査のほかに、特別に将来を担うべき高校生、さらには市職員を対象として実施したものでございます。御存じのとおり、基本構想は昭和60年12月議会におきまして御審議、議決いただいております。今回実施いたしました市民意識調査は、この基本構想を受けて第2期の5カ年計画を策定するための基礎資料として、現在の市民意識、施策に対する意向等を調査したものでございます。以上の理由によりまして、今回は一般市民を対象とした意識調査の実施となったわけでございます。

次に、第2点は日常環境生活の調査についてでございますが、昭和59年度に実施いたしました市民意識調査と今回の調査の比較でございますが、御指摘のとおり住みやすさに関するデータにつきましては、住みやすい3.3ポイント、普通1.3ポイントそれぞれ減少し、さらに住みにくいが5ポイント増加しております。今回実施いたしました市民意識調査は、精度95%で設計してございます。それは、対象者1,000人による市民意識の推計という側面を有しておりますので、その精度につきましても100%とはいかないためでございます。つまり調査の結果として得られた数値にプラス・マイナス3.3%を最大値とした誤差が生じるということになります。こうした前提に立って前回の調査と比較しました結果、住みにくいと回答している率の増加傾向はうかがえるわけでございますが、基本的には大きな状況の変化はなかったものと判断できると考えております。今回の調査によりますと、住みにくいは14%あり、その一番大きな理由として、道路や下水道などが整っていないとなっております。道路や下水道などにつきましては、現在市の重点施策とし

て全力を挙げて取り組んでいるところでございまして、また今後も取り組むべき施策でございますので、次期5カ年計画においても十分反映させてまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点、リゾート開発に関しまして、リゾート開発において自然保護か、利益か、どちらを優先するのかという御質問でございますが、開発と自然との調和を図り、競合する他のリゾートに対し、差別化を進め、個性あるリゾート地域とするためには、現在ある自然を大切にし、上手に活用することだと考えております。それは、保全すべき自然は守り、利用すべき自然は活用することによって、新たな館山らしい自然景観が創出されるものと考えております。

次に、大きな第2点、河川、海域の浄化対策についてでございますが、小さな第1点、今まで行ってきた対策の成果についてという御質問でございますが、家庭でできる浄化対策として、市民の浄化に対する意識の高揚を図るため、モデル地区を定めて三角コーナー、水切りごみ袋の試供品の配布や、河川直接浄化として人工芝、礫間浄化によりBOD約30%が除去されております。また、家庭用小型合併浄化槽の設置に対し補助制度を導入するとともに、生活排水処理施設の設置により、汚濁負荷の軽減を図ってまいりました。さらに、主要河川、排水路への塩素滅菌も実施し、大腸菌の海域への流入を防止しております。

小さな第2点目、特に三軒町排水処理施設の設置効果についての御質問でございますが、昭和63年度、平成元年度2カ年継続事業で実施いたしました生活排水処理施設の浄化効果につきましては、放流水で平均82から96%のBODが除去されており、また大腸菌につきましては、いずれも不検出の状況でございます。

小さな第3点、汐入川流域の排水路に排水処理施設の設置を考えているかとの御質問でございますが、汐入川流域の主要排水路につきまして、平成2年度におきまして各排水路の現況調査、処理方式、排水量、汚濁負荷量、用地、概算経費等調査を実施し、調査結果をもとに施設の検討を進めてまいります。

以上、答弁を終わります。

◎議長（林 豊君） 2番議員。

◎2番（永井龍平君） おおむね理解はいたしました。ちょっと疑問に思う点もございますので、再質問をさせていただきます。

まず、市民意識調査についてでございますが、まず小さな第1点でございますが、ただいまの市長の御答弁によりますと、昭和61年から平成12年度までの15年間の市の長期ビジョンである基本構想策定の資料として、一般市民のほかに高校2年生及び市職員の調査をしたとの御説明をいただきましたが、これは理解いたします。しかしながら、15年間の長期ビジョンは大変長い期間でございます。近年は、国際的にもソ連を初めとする東欧諸国の民主化の動向、国においては政権を初めとする経済問題等、大きく激動の時代となっております。そのためにも常に時代に即応した計画の策定、政策の立案が必要だろうと考えます。その意味からも、行政サイドからの意向、また将来を担う高校生の意見を最低5年に1度の調査を実施して、認識をすべきと考えますが、この点いかがお考えでございますかお願いいたします。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） ただいま市長から御答弁をいたしましたとおり、既に長期ビジョンである基本構想が定めてございます。この構想策定に当たりまして、21世紀の長期展望の中で大きな時代の潮流である国際化、高齢化、高度情報化等を受けとめるとともに、東京湾の横断道路等のビッグプロジェクトの影響なども踏まえまして策定をしてあるわけでございます。高校生の意識調査の結果も反映されております。今回はこの基本構想に基づきまして、5カ年の基本計画策定でございますので、御理解を賜りたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 2番議員君。

◎2番（永井龍平君） 現在の高校2年生といえば、平成7年になりますと二十二、三歳になります。人間的には半分子供であり、半分は大人である。社会人となる直前の年代でございます。将来この高校生たちが館山市の後継

者となり、政治、経済、文化等を担っていくのでございます。学生の立場であり、20歳、成人前の若い人たちの考え方、意見、発想というものは、私たち大人が想像している以上のものがあります。そして、大変驚かされることでもあります。このような観点から見ても、この年代の意識調査の実施は考えていただきたい、このように必要かとも考えますが、いかがでございましょう。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 永井議員のおっしゃることもよくわかりますが、ただいまお答えいたしましたように、今回は5カ年の基本計画の策定でございまして、基本計画は行政施策の基本的な事項を定めるものでございます。策定に当たりましては、市民意識調査を初めといたしまして、市議会議員の皆様方や市内の各界、各層の代表でございます総合計画審議会の委員の皆さんの御意見なども計画に反映をさせていく考えでございますので、御理解を賜たい、このように考えております。

◎議長（林 豊君） 2番議員。

◎2番（永井龍平君） わかりました。

じゃ、次に2点目でございますが、御答弁によりますと、サンプリングの誤差がプラス・マイナス 3.3%であり、前回調査と比較し、住みにくいとの回答率の増加傾向はうかがえるものの、基本的には大きな状況の変化はなかったものと判断できるとの御説明がありましたが、この答弁についてももう少し具体的に御説明をいただきたい、このように思います。この点について、増加傾向はうかがえるものの、基本的には状況の変化はなかった、これを具体的に御説明をお願いいたします。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） あくまでも市民全体の傾向としてとらえた判断であります。主流である普通と答えた人が5割以上を占めておりまして、それに住みよいを加えて、いわゆる普通以上と答えた人が8割強を占めておるわけでございます。前回と比較しても、住みにくい増加傾向はうかがえるものの、全体の傾向といたしましては、基本的に大きな状況の変化はなか

ったと判断するものでございます。また、本調査項目につきましては、主観的な評価でありまして、客観的な事実に関するものではございません。欲求水準によってその受けとめ方が変わってくるものでございます。5年に1回の調査でありますし、この間に市民の生活水準の向上や意識の変化などもございますし、実態として本市が住みにくいと判断するのは難しい面もございます。

しかしながら、本調査の目的は市民の意向を計画へ反映させるために実施したものでございますので、また永井議員さんのお考えもよくわかりますので、先ほど市長が答弁もいたしましたように、調査の結果を十分に配慮いたしまして、市民の多くの方々に満足をしていただけるようにまちづくりに努力をしまいたい、このように考えております。よろしく御理解のほどお願いしたいと思います。

◎議長（林 豊君） 2番議員。

◎2番（永井龍平君） 市民意識調査については、今の御答弁がありましたように、いろいろな要素、いろいろなまた時代背景、そういったいろんなものがあります。それで、今の御答弁の形となったと思いますが、住みにくい一番の理由に、道路や下水道などは整っていないが37.8%と最も高いわけでございます。この施策につきましては御答弁で、市の重点施策として全力を挙げている。また、今後の次期5カ年計画においても、十分に反映させていくとの御説明がありましたが、この施策につきましては、このような調査結果が市民の声として要望があったのでありますので、予算の増額等を含め十分な対応をしていただきたい。このようなことを強く要望いたします。

市長さんは、第1期総合計画の巻頭のあいさつの中で、「目指すべき将来都市像をいわゆる活力ある文化福祉都市」と定め、「将来都市像実現のために全力を傾注してまいりたい」と述べ、結びに、「そして、市民のだれもが愛着を持ち、いつでも住み続けたいと願い、市民のだれもが誇りに思える精神的に、活力に富んだふるさとづくりを進めてまいりたいと存じます」、このように5年前の御決意をなさっております。この総合計画を基本に、この基本計画を中心に、5年間市長を中心に、市政に携わる方々が、活力ある文

化福祉都市の実現を目指して努力してまいりましたが、私の考えとしては、住みにくいがふえて、住みやすいが減った。単純的に考えて、こういう調査結果が出て残念でなりません。私は、市長さんをお願いいたしますが、この事実を軽視しないで、率直に認識なさって、次期基本計画の作成をしていただきたいことを要望をいたします。

3点目のリゾート開発に関する考え方につきましては理解いたしました。

次に、河川、海域の浄化対策についてお尋ねをいたします。まず最初に、本論で触れました相浜海水浴場が海の汚染がひどく、開設できなかった不幸な事態がありましたが、本年は相浜排水処理施設がこの3月に完成をし、また北条海水浴場には昨年5月三軒町排水処理施設が設置され、稼働されております。

毎年環境庁水質保全局が5月から6月にかけて実施する水質検査の結果を見えますと、61年から昨年まで平成元年までのふん便性大腸菌群数が、北条の海水浴場で100ミリリットル中292個から910個、相浜海水浴場で180個から760個と、適ではありますが、対策を要する、また、改善を要する数値となっております。本年のこの水質検査につきましても、私は大変懸念をしておりますが、本年のこの水質検査について自信はございますかどうかお尋ねをいたします。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 皆様方の大変御協力、御理解をいただきまして、浄化設備等の整備ができたわけでございます。これによりまして、市といたしましてはかなり高い成果が上げられるんじゃないかということで期待をしておるところでございます。しかしながら、これで十分だというわけにはいかない。これはなぜかと申しますと、やはり何ととっても地域の住民の1人1人が本当に環境を浄化する、そういう気持ちと、それから実行力を持って、そして郷土を愛していただく、これ以外にはないんじゃないか。市もやりました。住民もやりました。こういうことになれば、非常にいい環境が生まれてくるというように確信しております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 2 番議員。

◎2 番（永井龍平君） 何かの新聞で見たんでございますが、富山町がございましたね。日本でも 1 位か 2 位と言われるきれいな海の富山町に評価されております。富山町の状況を見ますと、排水処理施設が 1 日最大処理能力 500 トン、処理人口 3,500 人の処理施設と、1,100 トン、1 万人の処理人口のこの 2 施設があるわけでございます。そして、水質検査に至っては、ふん便性大腸菌が、もう 60 年、61 年、62 年、63 年、昭和元年と先ほどの 100 ミリリットル中 3 個以下なんです。これは、本当に私もこの結果を聞いて大変驚いたわけですが、3 個以下、2 個、こういう状況なわけでございます。あと 3 カ月余りとなりました海水浴場の開設前の水質検査について、万全の体制をして臨むようお願いをいたします。

次に移りますが、次に三角コーナー、水切りごみ袋についてであります、この浄化作用は 30% ということでありますが、この配布地域と使用状況について御説明をお願いいたします。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 三角コーナーと水切り袋についてでございますが、昭和 61 年度から実施してきておりまして、61 年度は長須賀の塩焚排水路関係で、長須賀の第 1 町内と第 3 町内 229 世帯でございます。それから、62 年度が船形の芝 2 号排水路で、堂の下の 2 町内と 3 町内で 217 戸、富崎の相浜排水路の関係で松崎と二斗田地区で 260 戸、計 477 戸、63 年度が那古下水路で東藤地区、辻、芝崎、大芝、これで 566 戸、館山の豊津川関係で、宮城でございますが、259 戸、神戸の巴川関係、犬石地区が 166 戸で計 991 戸、元年度が北条地区の六軒町排水路の関係で、六軒町の第 1 町内から第 7 町内会まで 1,103 戸、それから西岬の坂田川、島田川関係で坂田地区で 90 戸、合計 1,193 戸、ここまですべてトータルで 2,890 戸でございます、平成 2 年度予算をお願いしてございますのが汐入川関係で南条、大戸、館川、飯沼、岡田、東長田、西長田、これで 333 戸、それから同じく境川関係で、これは館野地区の大網、安布里、山本の 1、2、3 町内、国分の南、中、北地区、これで 610 戸、九重で滝川関係で藺、水玉、岩川、安東、二子、これで 234 戸、計

1,174戸、これは2年度が終わりますと4,064戸、こういう状況になります。

◎議長（林 豊君） 2番議員。

◎2番（永井龍平君） 配布先と戸数は説明いただきましたが、使用率についてはどうですか。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 過去にその後の使用状況を調査したことがあるわけですが、模範回答といいますか、使っていますということでの回答——90%以上が継続して使っていますというようなことでございまして、実態が果たしてそうかということになると、これなかなかやはり面倒なところもあるわけございまして、ただそういう調査に対しては使っていますという答えが返ってきております。

◎議長（林 豊君） 2番議員。

◎2番（永井龍平君） せっかく配布されたものを使っていますかと調査に行き、使っていないか、使わないと申しわけないという意味で使っていますと答える方もおられるでしょう。ちょっと聞いたところによりますと、初め61年の、長須賀の方ですから、長須賀の61年だと思いますが、最初は使ったけども、しばらくしてやめちゃった、このように言っておりました。また平成元年度の10月から11月にかけて配布された模様でございしますが、数人の町内会長さんにちょっと聞いてみましたところ、その後市からの状況等の把握またはいわゆる指導といいますか、そういったものも全然ない、このように伺いました。したがって、追跡調査、今私が言いましたように、やり方もちょっと調査が正確かどうか、台所に入ってみないとわからないわけですから、ちょっと不明確な点もあると考えられますけれども、この追跡調査も必要かと存じますが、この点追跡調査をした方がよいと思います。この点いかがですか。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 確かに御指摘のように、やりっ放しでは何にもならないわけございまして、今後使用についてのPRを進めるとともに、追跡調査についても検討してやっていきたいと思っております。

◎議長（林 豊君） 2 番議員。

◎2 番（永井龍平君） ぜひ調査—— いわゆる実態を掌握しながら、適切な使用を進めてまいるようにお願いいたします。

次に、家庭用小型合併浄化槽についてお尋ねをいたします。この合併浄化槽は、昭和63年度より設置事業補助金制度として家庭用雑排水の浄化対策として導入されたわけですが、この普及の実績はいかがでございましょうか。

また、平成元年度より合併処理浄化槽設置促進事業補助制度の拡充で、補助対象施設の拡大で5人槽から10人浄化槽までを、11人槽から50人槽までになりましたが、当市ではまだこの促進事業は取り入れておりませんが、補助対象として11人から50人槽までのものについて、どのように考えておられますかお尋ねをいたします。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） まず、1点目の今までの実績でございしますが、国庫補助事業となる前の62年度にモデルとして3件やりました。それから、63年度は28件でございします。それから、平成元年度は現時点で14件でございします。

それから、2点目の11人以上50人未満というものについての対応でございしますが、これは現在やっていますのは、家庭用の小型合併浄化槽ということでやっておるわけございまして、それで10人槽までということにしたんですが、50人槽近くになるともうほとんど事業用になるわけございします。しかし、これはやはり海域の浄化ということからしますと、検討すべきことだということで、今後検討してまいりたいと考えております。

◎議長（林 豊君） 2 番議員君。

◎2 番（永井龍平君） わかりました。

この合併浄化槽につきましては、補助対象地域があるわけですが、いろんな管理費だとか、いろんな宅地のいわゆる面積がちょっとなければいけないとか、いろんな問題がございしますけれども、ぜひこの施策は啓蒙をなさって、普及を推進していただきたいと思います、このように思います。

時間がございませんが質問いたします。この合併浄化槽の設置補助基数が、平成元年度は30基でございますが、平成2年度は15基になっておりますが、どのような理由で減になったのかお尋ねをいたします。これだけお聞きします。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 63年度あるいは元年度の実績 — 元年度実績は現在14基ということでございまして、予算に対してはその実績によって計上したわけでございますが、今後それは15基で終わりということでございまして、ふえるようであれば補正でもってお願いしてふやしていく、このように考えております。

◎議長（林 豊君） 2番。

◎2番（永井龍平君） わかりました。

大きな第2点でございますが、三軒町排水処理施設について御質問いたしますが、この排水処理施設の設置によりまして、北条海水浴場の海の浄化の効果はいかがでございませうかお尋ねします。

◎議長（林 豊君） 民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） これは、大変難しい問題でございまして、どれだけそれによってきれいになったかということは、なかなか海水検査の結果でどの部分がそうかということが、これはつかめないわけでございますけれども、ただ言えますことは、7月から12月までの実績で見ますと、1日の処理した水量が1日平均 1,125トンでございます。1,125立米、これで先ほどの市長の御答弁にありましたように、BODの除去率で82から96%除去率がある。それから、大腸菌については不検出ということでございまして、これが処理施設を設けなくて、三軒町排水路でそのまま流れておりましたときには、BODは平均で88ppm、SSで46ppm、大腸菌群数で1万 3,000個というようなものがあつたわけでございます。これがですから除去されたということは、それだけの汚濁の負荷は減っているということは、これは確実に言えると思います。

◎議長（林 豊君） 2番議員。

◎2番（永井龍平君） わかりました。

3番目でございますが、河川、海域の浄化についてでございますが、河川、海域の浄化対策につきましては、最終的には公共下水道の施設整備が問題解決施策である、このように考えます。来年度より公共下水道関係のセクションを設置して計画を進めていくようであります。公共下水道整備については実に長期の期間を要することになります。それまでの対策としては、この汐入川流域に排水処理施設を設置することが最良の施策と考えますので、十分な検討を進めていただきまして、早急なる設置をお願いいたしまして、以上で質問を終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で2番議員永井龍平君の質問を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。

午後2時43分 休憩

午後3時03分 再開

◎議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 既に通告をいたしました5点について御質問をいたします。

まず第1点は、リゾートマンションは、市民生活に重大な影響を及ぼすと思うがどうか。高さ制限など規制を強め、進出を抑制する考えはないかという点についてでございます。リゾートマンションの計画が、私の住んでおります那古地区で海岸通り沿いに2カ所相次いで出されました。1つは、海岸市道を挟んで市営住宅の西側に12階建ての仮称館山リゾートマンションで、事業主は株式会社山彦です。既に協田議員が質問をしたいわゆる山彦マンションであります。もう1つは、市営住宅の北側の線路わきに予定されている10階建ての仮称館山共同住宅で、事業主は埼玉県の業者で株式会社大喜建業であります。いずれも既に周辺住民が、リゾートマンションは困るということで市に陳情しているので、御承知のことと思います。さらに、聞くところによれば、次々にリゾートマンションの話が出されております。50階建てや

100階建てなどという話もあると聞き及んでいます。このままでは館山はリゾートマンションだらけになりかねません。それだけに市がこの那古の問題で具体的にどのように対応するのか、重大な意味があると思うのであります。市は、この1月1日からリゾートマンション指導要綱を施行いたしましたが、那古地区に出てくるといふこれらのリゾートマンションの具体的な問題について、市民の生活環境を守るという点で考えると、残念ながら大変に不十分なものだと言わなければなりません。

お隣の千倉町では、宅地等開発指導要綱でリゾートマンションの規制をするための改正を行い、この2月から実施いたしました。そこでは、千倉町を縦貫する県道白浜南三原線などより海岸までの地域を自然景観保護ゾーンに指定をして、国定公園の第2種、第3種特別地域の建物の高さ13メートル以下の規制に合わせて、この地区でも13メートルを超える共同住宅は認めないといったしました。国定公園の景観を守るためには、特別地域に指定されたところだけで13メートルの高さの規制をいたしましても、それを一歩外れたところでこれを大幅に超える建物が認められるとすれば、この規制は事実上全く意味のないものとなります。千倉町の措置は、自然公園の景観を守る自然公園法の理念に立ったものと思います。

我が館山の鏡ヶ浦に沈む夕日はすばらしい景観であります。この景観は、国民全体の財産であり、市民の誇るべき共有財産であります。海岸の砂浜だけが保全されればよいというものではありません。もし鏡ヶ浦の夕日が高層ビルの間からしか見えないなどというのなら、新宿や銀座から見る夕日と何ら変わるところはありません。国民全体の財産である国定公園の景観を守ることが、同時に市民の生活環境を守ることにつなげていく、これが市政の役割ではないかと思うのであります。市では、街並み景観形成指導要綱を制定し、そこでは高層建築の高さについて自然景観との調和に配慮するよう指導するとしております。自然景観との調和とは、具体的に何メートルと考えているのでありましょか。自然公園法は第2種、第3種特別地区の建物の高さ規制を10メートルあるいは13メートルと基準を具体的に示しております。千倉町の例に倣い、自然景観保護ゾーンを指定するなどして、リゾートマン

ションの高さ規制を実施してはどうかと思うのでありますが、いかがお考え
でありましょうか。

第2点は、ホームヘルパー増員やデイケアセンターなど高齢者在宅福祉の
拡充について急ぐ必要があると思うが、どうかという点についてであります。
老人保健法では、70歳以上の年齢になりますと、診療報酬が低く抑えられ
たり、70歳以上の老人の入院患者を多く抱えると、老人病院の指定を受ける、
そうなれば、病院は経営上の問題が出てくるため、これらのお年寄りに退院
を求めるという例が大変ふえてきております。病院を追い出されて在宅療養
といっても、それを支える社会的な仕組みはありません。過日私の聞いたと
ころであります。夫婦2人住まいで、奥さんが倒れ、意識不明の寝たきり
状態になってしまった。ところが、症状が固定すると病院では面倒を見てく
れず、自宅療養ということになりました。御主人は、意識のない寝たきりの
奥さんを抱え、その奥さんの点滴、さらに日に何回もの寝返りの世話、さら
に膀胱の洗浄などの医療行為もこなしてまいりました。一たん病気になるて
も、70歳以上になりますと、今の病院は社会的入院などとみなして、最後ま
で面倒は見てくれません。我が国は、老人の自殺率が世界一だと言われてい
ます。だれでも年をとっても人間として尊重されなければなりません。それ
には、どうしてもホームヘルパーの増員やデイケアセンターなど、高齢者
在宅福祉の拡充を急ぐ必要があると思うのであります。政府は、高齢者の保健
福祉10カ年戦略なるものを打ち出しております。市としてはこうしたホーム
ヘルパーの増員、デイケアセンターなど、高齢者在宅福祉の拡充についてど
のように考えているのか、お示しをいただきたいと思うのであります。

第3点は、南部広域水道の長柄ダムの水質は、水道水として大変悪いもの
と考えられるが、どう考えているかという点についてでございます。私は、
かつて霞ヶ浦に視察の関係で行ったことがあります。水が汚れてアオコが
発生し、そのにおいは大変なものでありました。これを水道水に使うという
ことは、率直に感じまして、大変なことだと思ったところであります。南部
広域水道は、利根川から取水し、長柄ダムにためて、この水を水道水に使う
というものであります。もともと利根川の水の取水地点自体が佐原であり

ますから、茨城県南部など、他の地域下水道の下流域であります。さらに、上流でも既に利根川から水をくみ上げている印旛沼下沼ではアオコが繁殖してヘドロとなっているといえます。もともとかなりのアオコを含んだ水をくみ上げて、長柄ダムにとめおくとすれば、周辺では霞ヶ浦のような悪臭に毎年夏場は悩まされるということになりかねません。そうなれば、市民が使う水道水も臭くて、そのままではとても飲み水としては使えません。各家庭で浄水機を設置するということになり、飲み水はミネラルウォーターに頼る、こんなことになるのであります。こんな霞ヶ浦の二の舞は御免であります。この点について市はどのように考えておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

第4番目は、館山駅前広場の排水管からの悪臭について清掃が必要と思うがどうかという点についてであります。過日市民から、駅前広場に浄化槽からのような嫌なにおいがするが、市の玄関に当たるところであり、市のイメージを損なうことにならないかとの御指摘を受けました。私自身も駅前広場で街頭宣伝などに立つことがあります、確かに悪臭が感じられることがありました。場所からいっても、市民全体の問題であり、あってはならないことと思えます。駅前地区の排水管の清掃が必要と思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

第5点目であります、残土による大規模な埋め立てが実施されておりますが、条例に基づく厳正な監視が必要と思うがどうかという点についてであります。昨年3月市議会で、いわゆる残土条例が決められました。この条例22条では、市長の許可を受けなかった者は、1年以下の懲役または10万円以下の罰金というように、市の条例としても大変な重罰で臨んでいるところであります。昨年11月ごろより、市内出野尾地区の衛生センターの奥の谷間に大量の残土が搬入されております。それは、現在も続いております。周辺には条例で定められた標識も見当たらず、残土条例に基づく正規の手續に沿ったものかどうか見当もつきません。この条例自体ができたばかりであり、市民や業界に十分周知されているとは言いがたいこともあるとは思いますが、県の産業廃棄物条例と相まって、この条例を守らせることが、環境保全の上

で大変重要であります。市はどのようにお考えでいらっしゃいますか。

以上、御答弁によりまして、再質問をさせていただきます。

◎議長（林 豊君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、リゾートマンションに関する御質問でございますが、リゾートマンションの建設につきましては、市民生活に影響を及ぼすことが考えられますので、平成2年1月1日から市への事前協議等を内容といたしました館山市リゾートマンションの建設に関する指導要綱を施行したところでございます。市民生活へできるだけ影響を及ぼさないよう指導してまいりたいと考えております。

また、高さ制限をしたらどうかとの御質問でございますが、建築物の高さにつきましては、建築基準法、都市計画法及び自然公園法等によりまして制限されているところでございますが、リゾートマンションの高さによる景観、日影等の影響につきましては、法令によるほか、館山市リゾートマンション建設に関する指導要綱の中で指導してまいりたいと存じます。

次に、第2点、ホームヘルパー増員やデイケアセンターなど、高齢者在宅福祉の拡充について急ぐ必要があると思うがどうか、こういう御質問でございますが、在宅福祉の3本柱であるホームヘルパー、デイ・サービス、ショートステイは、高齢者保護として必要な事業であり、ホームヘルパー制度の今後のあり方を含め、需要に応じた人員を計画的に配置してまいります。デイ・サービスにつきましては、日常動作訓練を除きそれぞれ個々の事業で対応しておりますが、センターの建設につきましては、老人ホームに併設することが原則でございますので、施設や職員の問題もあり、施設長と協議しているところでございます。今後広域的に設置の方向で検討してまいりたいと考えております。ショートステイにつきましては、利用者が少ないので、現在利用券の発行や福祉カーの利用等を考え、利用しやすいようにしてまいります。

第3点、南部広域水道の長柄ダムの水質は、水道水として大変悪いものと

考えられるが、どう考えているか、こういう御質問でございますが、現在長柄ダム等を取水地点として既に九十九里地域水道企業団が、八匝、山武、長生の末端給水事業へ用水供給を行い、17市町村、約8万3,000戸に給水しており、厚生省で定める水質基準を満たしております。将来の水需要につきましては、水質監視体制の強化とその対策について、事前に十分検討するよう関係機関に要請してまいりたいと考えております。

次に、第4点、館山駅前広場の排水管からの悪臭について清掃が必要と思うがどうかという御質問でございますが、銀座通りから駅前広場に至る道路側溝は、毎年定期的に清掃をしております。また、日東交通から十字屋を経て汐入川に至る六軒町排水路は、昨年7月に業者委託をし、清掃を実施いたしました。今後も引き続き汚泥の堆積状況を見ながら清掃してまいります。

次に、大きな第5点、残土による大規模な埋め立てについての御質問でございますが、館山市佐野字大砂1020番地外3筆、規模といたしましては2万1,606平方メートル、総土量10万立方メートルでございます。生活環境の保全及び周辺住民への公害の発生を未然に防止するため、事業施行者に対し残土成分分析、浸出水による水質分析等の検査を実施させるなど、万全の措置をとるよう指導してまいりました。現在各種書類も整備され、許可書の交付をいたす段階となっております。今後環境の保全及び災害の防止を図るため、監視の強化に努めてまいります。

以上、答弁を終わります。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） リゾートマンションの高さの問題については、今の中では具体的な内容がうかがえないわけです。指導をしていくというんですが、指導していく——何を基準に指導するのかということなんです。自然公園法では、明確に13メートルとか、10メートルとかという基準を明確にしております。その指導の基準は何もないんですか。景観では、高さについてということについて、景観指導要綱では自然との調和と言っていますけれども、わかったようで、わからない話なんです。この基準についてどういうふうにお考えになっておりますか。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） リゾートマンションの指導要綱の6条でございすけれども、ここに環境保全というのがございすが、ここで日陰規制によりますもので高さを制限する。要するに日陰によって住民に影響を与えないというようなことにしてございす。

以上でございす。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） 日陰で住民に被害を与えないというんですけれども、先ほどの脇田議員への御答弁ですと、これは建築基準法で許される範囲内の日陰については許容されるんだ、こういう御答弁だったんです。今の御答弁ですと、どういうことなんですか。そうすると、実際には今のお話は日陰でと言っても、建築基準法で言うところの日陰ですね。それで規制をするんであって、市は何もしないということと同じじゃないんですか。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） ただいまのは、建築基準法のほかに、館山市で建築基準法の適用を受けない地域についても、これを同じように適用するということでございす。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） そうすると、今の問題になっております館山のリゾートマンションについては、これは全く建築基準法そのまんまということで、市としては特にこれ以上のものはないというふうに理解してよろしいですか。

そういうことじゃ困るんです。そうなっちゃうんです、今のお話ですと。ですから、千倉町は13メートルということを独自に決めて、町の指導要綱の中でやっているんです。これを見習ってほしいと思うんです、率直なところで。

それで、私が調べている限りでは、千倉町は自然景観保護で13メートルです。それから、鋸南町では住宅密集地域については20メートル、これは何を住宅密集地域かという議論をまたしなきゃいけないと思うんでありますけれ

ども、20メートルというふうに、近隣の町村においても、住民の生活環境を守るためには、抽象的な言葉ではなくして、具体的な基準を示して住民の生活環境を守ろうという決意を示しているんです。これが大事なところだと思うんです。その点では、館山市は極めてその辺についてはあいまいもことした姿勢でいるのではないかなと思うんです。

その辺を今後、平成2年度には中高層建築物全般についての指導要綱も検討するという答弁が12月にありましたけれども、それを待ってというんじゃ、ちょっともう手おくれじゃないかなという気もするんですけれども。しかしいずれにしても千倉町ではこの指導要綱の前に、2月1日からですから、それ以前にもうリゾートマンションの話あったんです。ところが、町長はこういうふうに今考えているから、やめてくれというふうにして業者を説得して、業者も結局出なかったという経過があるんです。やっぱり行政の姿勢というのは非常に大事なんです。千倉町でこういう法律上の根拠は、率直に言って自然保護法、これを引用したということになっているんでしょうけれども、建築基準法でいって、業者がどうしても進出するという場合にはいろいろ問題が出てくるんです。周辺で、千倉町ではいろいろと規制がこうだ、白浜町では規制がこうだ、規制がないのは館山だけだとなれば、業者は館山にみんな来るんです。そういうふうにお考えになったことはありませんか。

◎議長（林 豊君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 先ほど市長から御答弁をいたしましたように、法令によるもののほか、館山リゾートマンションの建設に関する指導要綱の中で、指導をしてまいりたいというふうに話しておりますけれども、この一定の高さの制限を設けるということにつきましては、指導要綱を作成する段階においていろいろ検討をしております。その中で、庁内の中でもこれ一定の高さ制限を設けるべきではないかというような意見もございましたし、そういうようなことで指導要綱につきましては、いろいろ議論をしてきたところでございます。制限する高さあるいは制限する地域等、非常に難しい面もございますけれども、引き続いて検討事項として検討を続けてまいりたい、このように考えております。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） 急いで検討して、急いで結論も出していただきたいと思います。

それで、館山リゾートマンションについて、この宅地等開発指導要綱、これに該当する開発行為だと、こう思うんでありますけれども、開発規模は幾らありますか。

それから、宅地等開発に関する事前協議書、これはいつ付で出されておりますか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 開発面積でございますが、3,715.86平米でございます。

それから、協議書でございますが、本年の1月の30日に協定が結ばれております。

以上です。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） 私は、協議書はいつ提出されていますかと聞いたんですけれども、1月30日に協定が結ばれているという御答弁でしたが、間違いありませんか。

◎議長（林 豊君） ここでちょっと傍聴人の方に申し上げますが、傍聴人は会議についてその可否を表明をすることは禁じられております。もしそれに従わない場合は、議長の方において退席を要求することがありますので、よろしく御判断を願いたいと存じます。よろしくお願いをいたします。

暫時休憩をします。

午後3時28分 休憩

午後3時31分 再開

◎議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 事前協議の申請でございますが、平成元年の6月の30日に提出されております。そして、協定書の締結でございますが、平

成2年の1月の30日で間違いございません。

以上です。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） 協定を結んだというのは、これは重要な問題になりますね、そうすると。開発指導要綱では、第7条の中で、「事業者は、事業により周辺に影響を及ぼすおそれのあるものについては、事前に関係者の同意を得なければならない」とありますね。実際に関係者の同意が得られておりますか。私が知っている限りでは、住民の中でも計画の内容がまだ具体的にわからない。1回説明会をやったのがつい先日で、これから住民との話し合いで入る段階だというふうに理解しているわけで、市が協定を結ぶというのはどういうことなんでしょうか、それは。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） この協定の内容でございますけども、これにつきましては企業者側と、それから市の間で交換しておりますものが、いわゆるこれからこういうことを注意しなさいという、あるいは了解を求めなさいということで協定が結ばれているわけでございます。例えばこの関係で申し上げますと、第2条で「開発区域の周辺の住民及び利害関係者と協議をし、同意を得るものとする」ということで協定が入っております。その次に、用水の関係につきましても、三芳企業団と協議した内容を履行すること、また、取水井戸を掘る場合には、周辺に影響のないよう十分配慮することというようなことで、これからいろいろとこういう仕事をしていく上には、心配されることを十分関係機関と協議をしてくださいということで、いろいろと内容が付されておるわけでございます。

以上です。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） そうすると、条件がついているんだから、心配ないんだというようなお立場なんでしょうけれども、そうじゃないんです。そういたしますと、住民の立場からすれば、今現実の問題としては日照の問題あります。事業者の方からこういう計画だと示された。その計画を示された。

それは困る。実際困るんです。建築基準法云々と言いますけど、大体冬至の日、9時から3時、その間で3時間以内の日陰ならばいいんだというんでしょう。現実に市営住宅の障害者住宅です、ここが一番ひどいんです、日陰になるのは。大体12時半ぐらいから日陰になりまして、3時過ぎまで日陰になるんです、見ますと。約3時間以内です、確かに。夕方4時ぐらいになると、ちょっと日が回ってきますから、ちょっと差しかかるかなというぐらいのものです。これは、何も冬至の日だけじゃないんです。1年じゅうです、こういうふうになるのは。午後から日が当たらないんです。こういうことが特に市の市営住宅の障害者住宅が一番ひどい被害を受ける。一体館山市というのは、福祉について何て考えているのか。考えられないことをやるんだと思うんです。

これを解決するには、建物の高さを低くするしかないんです。あるいは建物の設置場所を移動するしかないんです。今の計画を認めてもらうか、認めてもらわないかじゃなくて、今の計画を変更しなきゃならないんです。協議というのは、変更の余地があって協議なんであって、これ以外変えようがないんだ。あとは認めるか、認めないかだということで判こを押せ、同意をしろというんじゃ、これじゃ話し合いにも何にもならないんです。だから、市が協定を結ぶというのは問題なんです、それ。住民の意見をよく聞いて、業者が住民との間の話し合いで変更するとか、変更しないとか、それでどこまで譲歩できるとか、できないとかという論議は、これからやるわけです。だから、業者の態度がもうこの計画だから、この計画で認めてくれ、それ一点張りなんです、話なんか聞きますと。その背景にあるのは、そういう市の今の姿勢、協定を結んだというところにあるんじゃないんですか。やはりそれはちょっと問題があるんじゃないかと思うんです。

それで現実に宅地開発指導要綱の中では何て書いてあるか。開発規制第4条で、「市長は、市民の生活と良好な自然を守る」と、こう書いてあるんです。「貴重な資源を保存するため、必要と認められるときは、規制措置を講ずることができる」とあるんです。規制措置です。できるんですよ、この指導要綱では。市営住宅の障害者住宅が日が当たらなくなる。こういうことは

やめてくれということで、言うことは当然できるわけです。なぜそういうこととなさらないんですか。

◎議長（林 豊君） 暫時休憩いたします。

午後 3 時 3 8 分 休憩

午後 3 時 4 3 分 再開

◎議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

経済部長。

◎経済部長（安西良一君） まず第 1 点は、この協定書を結んだからといって、即それが開発は結構ですよということでのものを前提として協定書が結ばれているものではない。むしろこれから開発するに当たって、いろいろ周囲との利害関係だとかある人たちの同意を求めたり、そのほか他に影響を及ぼすようなことがあったんではいけないんで、その辺をクリアすることということで、そういう内容で協定書が結ばれておるわけでございます。

現段階の状況を申し上げますと、1 月 30 日にこの協定が結ばれまして、業者側の方にこのことを話したわけでございます。その結果は、まだ返ってこないというのが状況でございます。そして、それが返ってきますというか、いろいろと条件がクリアされたならば、初めてそこで許可申請を出してくるというようなことになります。

以上です。

◎議長（林 豊君） 11 番議員。

◎11 番（神田守隆君） そういたしますと、その協定というのは、まだ今後のあれでは変わり得るというふうに考えていいわけですね。その協定があるわけですが、住民との話し合いによって、計画の内容というのは当然弾力的に考えるべきものだというふうに理解していいんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） それで結構でございます。

◎議長（林 豊君） 11 番。

◎11 番（神田守隆君） そこで、開発の問題で 1 点どうも確認しておきたい点があるんですが、この建物の申請、開発協議基準によりますと、建物区

分で、高層建築になるんだと思うんですが、何戸、リゾートマンションの場合に入るのか。計画人口、要するに常住人口、これは何世帯、何人というふうに計画書では出されておりますか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 計画戸数は53戸ということで、人数は入っておりません。

◎議長（林 豊君） 11番議員。

◎11番（神田守隆君） そうすると、53戸であって、計画人口は入っていない。記載されていないということはゼロというふうに理解していいんじゃないんですか。そういうふうに理解せざるを得ませんね。常住人口なし。初めのお話だと、管理人はあそこに住むという話だったから、2人は住むんじゃないかなと思っていたんですけども、リゾートマンションというのは、文字どおり保養目的なり、別荘なり、そういうような目的の建物ですから、そういうふうになるんだろうと思うんです。常住人口についてはなしということになると思うんですが、私は指導要綱の中で、別荘または保養目的のための建築物にかかわる宅地開発、これは建ぺい率20%という押さえ方していますね。今の例ですと、常住人口なしというんですから、いわゆる別荘等、これにまさに該当するのが今回の申請じゃないんですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） これは、いわゆる戸建て住宅とは考え方が違っていると思います。いわゆる共同のリゾートマンションという形になると思います。

◎議長（林 豊君） 11番。

◎11番（神田守隆君） 別荘等ということで、別荘だとかあるいは保養目的の建築物、これは別なんだという形で、ここで規定しているんです。1戸建てと書いてないんです、宅地開発指導要綱には。その使用目的、常住の人たちのものじゃなくて、一時的に来る。こういうものが別荘等というふうに理解せざるを得ないんですが、宅地開発指導要綱の読み方をいたしますと。その辺はどうやって読むのかというのは、なかなか難しい問題もあるんでし

ようけども、そうやって理解できるんです。そうすれば、建ぺい率20%ということになりますから、とても今の計画は宅地開発指導要綱の別荘等の規定をクリアしていない、こういうふうに指摘せざるを得ないんです。

この問題やっていると、時間がなくなっちゃいますから、次いきます。この事業の事業主、株式会社山彦さん、私調べましたら、何か波左間に本社があるということで、波左間の本社まで行ってきましたけども、この会社、資本金 200万ですね。それで大体50億ぐらいの規模の事業をやろうというわけです。この会社の設立は63年の8月です。あの会社を設立する、ほとんど10日前ぐらいに設立されているんです。果たして資本金 200万円で直前に設立された会社で、この会社が50億からの規模のこのリゾートマンションの事業を、十分に責任持ってやれる業者なのかどうかという点で大変不安を感じるんです。今実際どこでもリゾートマンションやる場合には、いわば現地にダミー会社をつくりましてやるという例が大変ふえている。しかし、実態はそれはあくまでもダミーであって、本当にお金を出すのは別のところにいて、そういう人はおいしい汁をたっぷり吸って、リゾートマンションの。もうけだけはしっかりやって、いろいろ問題が起きたときには、現地のダミー会社が責任を負う。責任を負うと言ったって 200万ぐらいの会社が責任負えるわけじゃないんです、いざ問題が起きた場合に。こういう問題があるんです。どこでもあるんです、これ。

それで、こうした業者の信用保証なり、担保なり、そういうことについて行政が住民に責任を負う立場に立てば、やはり何か工夫していかなきゃいけないんじゃないか。大変不安です。いかがですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） そこまでは市の方としては今までもタッチしたことがございません。

◎議長（林 豊君） 11番。

◎11番（神田守隆君） タッチしたことがないでしょうけれども、常識なんです、これは。常識のことで考えて、200万の会社で、設立したばかりの会社が、これだけの事業をやれるというふうに思えませんから、やはりこの

辺についてどういう方がこの会社のバックでいるのか。あなたどんなに協定結んだって、この会社が倒産しちゃったら、だれが責任とるんですか。200万ぐらいのお金じゃ、倒産するなんて簡単なことです。そうなったら、どんなに市が協定を結んだって、あと本当のいわゆるオーナーのところに話は持っていけなくなってしまう。何にも解決しなくなるんです。だから、今やったことがないなんていう、そういうつれない返事じゃなくて、これは研究しなきゃいけない課題だと思うんです。いかがですか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 建築確認の方は県でございますので、市としてはそこまでタッチして指導が非常にやっぱり困難じゃないのかなというように思います。

◎議長（林 豊君） 11番。

◎11番（神田守隆君） 館山共同住宅の方の話はまだまだたくさんやりたいんですけども……。お伺いします。これは、987.48平米というふうの開発面積が揭示されているんです。これは、0.1ヘクタールを超えると市の宅地等開発指導要綱の適用になりますけれども、わずかのところでその適用にならない数値なんです。しかしながら、ここは事前に開発された土地と、その土地の一部を使って合わせて使うというようなことがあるもんですから、宅地開発指導要綱の場合でも、0.1ヘクタール未満であっても、以前に開発したものと合わせた場合には、これを1つの一団の土地とみなして適用するというふうな運用があると思うんですが、この共同住宅の関係については、宅地開発指導要綱、これが適用になるんだというふうに、その辺お考えいただけないかどうか。

◎議長（林 豊君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） これにつきましては、私どもうわさの段階で聞いておるわけでございます。内容等全くわかりません。したがって、市の方といたしますと、関係する業者を呼びまして、そして内容を聞いてみたいというふうに考えております。

◎議長（林 豊君） 11番。

◎11番（神田守隆君） 市の方では、恐らく業者は0.1ヘクタール未満と
いうことですから、市の宅地開発指導要綱にかからないんだと、たかをくく
っているのではないかなと思うんですけども、従来の土地と合わせてカウ
ントして0.1ヘクタールを超えれば、当然適用になるわけですから、その辺
を慎重に見届けていただきたい。

そしてまた、館山共同住宅は、約30メートルの10階建てというんですけれ
ども、ちょうどこの風下のところが純真保育園とか、あるいは第一中学とか、
公共施設があるんです。白浜の例によりますと、大体ビルから50メートルぐ
らいのところが屋根がわらが飛ぶんです。屋根も飛んだという話まである。
びっくりしたんですけども、大体50メートルぐらいのところといいますと、
第一中学だとか、あるいは純真保育園、大風の日に子供が保育園で遊んでい
て吹き飛ばされて、事故が起きたなんていったら、本当に目も当てられない
話ですから、そういう点からもこれは大変大きな問題を持っております。そ
ういう点では、公共的な立場からも、開発指導要綱の適用については特に留
意をしていただいて、あわせてこの問題についての検討をいただきたい。市
の方では詳しい内容をつかんでおらないということでもありますから、それを
早速つかんでいただきたいと思います。

それで、風害の問題について、今話しましたけれども、風害——各地調べ
ましてもなかなか難しいんです。それで、白浜でも、屋根がわら飛んだ。そ
れを補償する、補償しないという問題で業者何て言うか。自然現象ですから
しょうがない。だから、見舞金でやりましょうという話で済まされちゃうん
です。ですから、そこらは举证責任を業者側に持たせて、周辺の屋根がわら
が飛んだような場合には、間違いなく相当因果関係を業者が認めて、そして
業者の責任でやるというふうなことを協定の中なり、指導なりの中で考えて
いただきたいというふうな点を指摘しておきたいと思います。

以上で終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で11番議員神田守隆君の質問を終わります。

◎議長（林 豊君） お諮りをいたします。

本日の会議はこれにて延会をいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明9日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問